

(2) 予測

1) 予測の手法

① 予測手法

動物の予測は、動物の重要な種について、「道路環境影響評価の技術手法」に基づき、分布又は生息環境の改変の程度を踏まえた解析により行いました。

工事施工ヤード及び工事用道路等の設置位置、道路構造と重要な種の生息地の分布範囲から、生息環境が消失・縮小する区間及び重要な種の移動経路が分断される区間並びにその程度を把握しました。なお、移動経路については移動性の高い中大型哺乳類、越冬等に伴う季節移動を行う両生類、爬虫類、渡り等を行う鳥類及び河川に生息する魚類を対象に検討しました。

また、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置及び道路の存在による対象種の生態を踏まえた生息環境の質的变化（建設機械の稼働、道路照明、水の濁り、地下水の変化）の程度を把握しました。なお、建設機械の稼働による影響は予測地域に営巣地がある猛禽類を対象に、道路照明による影響は夜行性鳥類及び走光性のある昆虫類を対象に、水の濁りによる影響は開放水域（河川・溜池）及び湿地に生息する鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類、底生動物及び陸産貝類を対象に、地下水の変化による影響は山地の沢や湿地に生息する魚類及び昆虫類を対象に検討しました。

次に、それらが重要な種等の生息に及ぼす影響の程度を、科学的知見や類似事例を参考に予測しました。

予測手順を図 11-10-9 に示します。

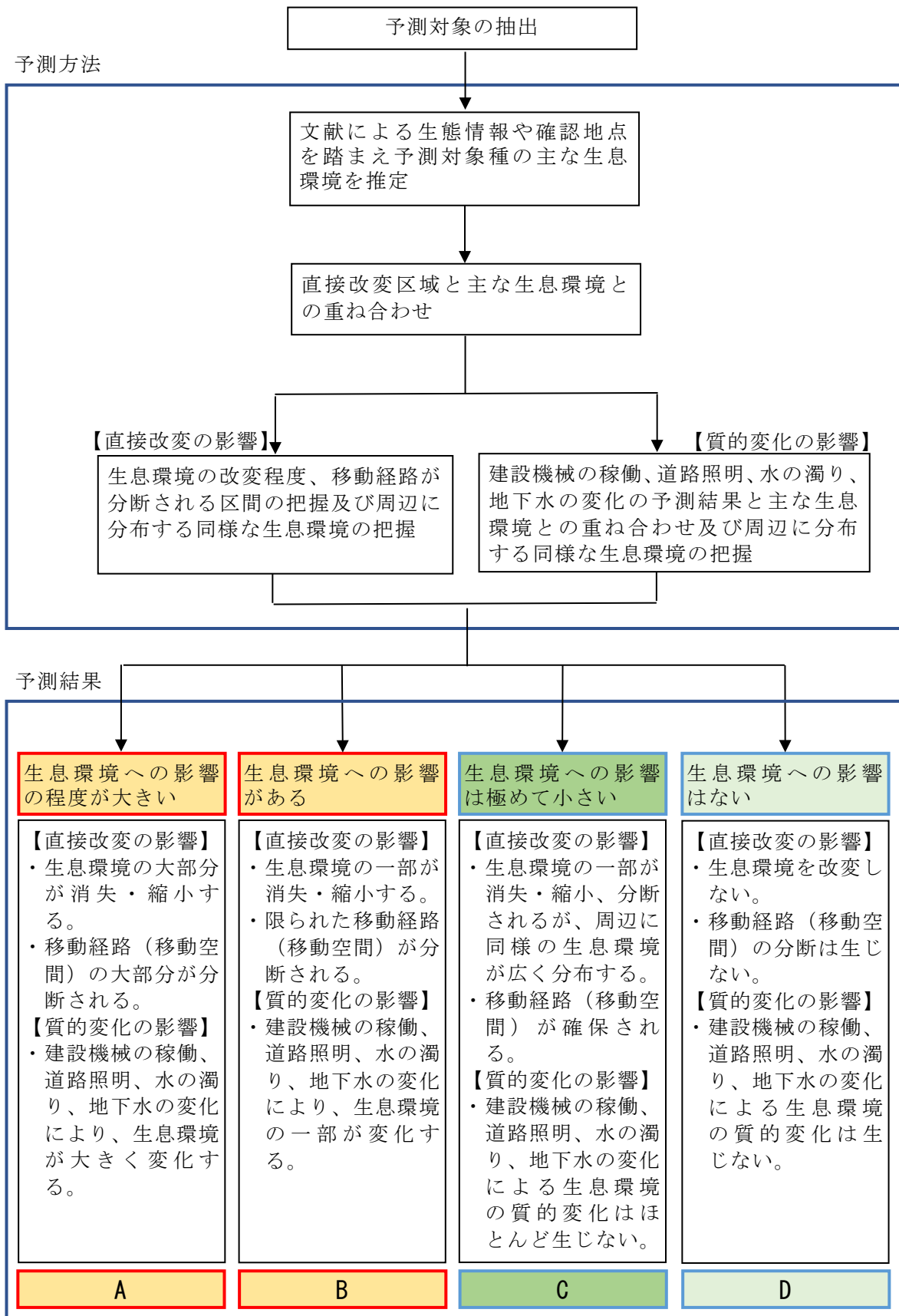


図 11-10-9 動物の予測手順

② 予測地域

予測地域は、調査地域のうち、動物の生息の特性を踏まえて、重要な種に係る環境影響が考えられる地域としました。

地表部が改変され、直接的な影響を受ける可能性のある地域として「直接改変区域」を、また工事作業または道路の存在による間接的な影響を受ける可能性のある地域、生息域が分断される可能性のある地域として、「事業実施区域周辺」を予測地域としました。

● 予測地域

直接改変区域：都市計画対象道路事業実施区域内の直接改変を受ける区域（供用後は法面や側道等を含む道路用地境界まで、工事中は施工ヤード等を含みます）

事業実施区域周辺(直接改変区域外)：直接改変区域を除く調査範囲

③ 予測対象時期等

予測の対象時期は、事業特性及び動物の生態的特性を踏まえ、影響が最大になるおそれのある時期等としました。

具体的には、工事用道路の建設工事や工事施工ヤードの整備等、現状の土地を改変する段階からの工事の実施時期、並びに道路施設が完成・供用する時期としました。

④ 予測対象種の選定

予測対象種は、現地調査により事業実施区域及びその周辺で生息が確認された重要な種を選定しました。

予測対象とした重要な種は表 11-10-26(1)～(3)に示すとおりで、哺乳類は 9 種、鳥類は 37 種、両生類は 7 種、爬虫類は 7 種、魚類は 14 種、昆虫類は 27 種、底生動物は 11 種、クモ類は 6 種、陸産貝類は 16 種です。なお、底生動物調査で確認された昆虫類については、全て昆虫類の項目で予測しました。

なお、注目すべき生息地である「浜名湖周辺湧水湿地群（梅田北湿地）」については、地域を特徴づける生態系のうち「山地-樹林主体の生態系」を構成する環境として位置づけられるため、「第 11 章 第 12 節 生態系」で予測しました。

表 11-10-26(1) 予測対象種

No.	分類	目名	科名	種名	確認位置		
					直接変更区域	事業実施区域周辺	
1	哺乳類	コウモリ目（翼手目）	キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ		●	
2			ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ科①※1	●	●	
3				ヒナコウモリ科②※2	●	●	
4		ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ		●	
5		ネズミ目（齧歯目）	リス科	ムササビ		●	
6			ネズミ科	カヤネズミ		●	
7		ネコ目（食肉目）	イタチ科	テン（ホンドテン）	●	●	
8				アナグマ		●	
9		ウシ目（偶蹄目）	ウシ科	カモシカ		●	
1	鳥類	カモ目	カモ科	オシドリ		●	
2				キンクロハジロ		●	
3		ペリカン目	サギ科	ミゾゴイ		●	
4				ゴイサギ		●	
5				チュウサギ		●	
6				コサギ		●	
7		ツル目	クイナ科	ヒクイナ		●	
8				バン		●	
9		カッコウ目	カッコウ科	ツツドリ		●	
10		ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ		●	
11		アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ		●	
12				アマツバメ		●	
13		チドリ目	チドリ科	ケリ	●	●	
14				イカルチドリ		●	
15				シギ科	ヤマシギ		●
16				タマシギ科	タマシギ		●
17		タカ目	ミサゴ科	ミサゴ		●	
18				タカ科	ハチクマ		●
19					ハイタカ		●
20					オオタカ		●
21					サシバ		●
22					クマタカ	●	●
23		フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク		●	
24				コノハズク		●	
25				フクロウ	●	●	
26				アオバズク	●	●	
27		キツツキ目	キツツキ科	アリスイ		●	
28		ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	●	●	
29		スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ		●	
30			カササギヒタキ科	サンコウチョウ		●	
31			ツバメ科	コシアカツバメ		●	
32			ムシクイ科	オオムシクイ		●	
33			ミソサザイ科	ミソサザイ		●	
34			ヒタキ科	クロツグミ		●	
35				コサメビタキ		●	
36			セキレイ科	ビンズイ		●	
37			ホオジロ科	カシラダカ		●	

表 11-10-26(2) 予測対象種

No.	分類	目名	科名	種名	確認位置		
					直接変更 区域	事業実施 区域周辺	
1	両生類	有尾目	イモリ科	アカハライモリ	●	●	
2		無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル		●	
3			アカガエル科	ニホンアカガエル		●	
4				ネバタゴガエル		●	
5				トノサマガエル	●	●	
6				ツチガエル		●	
7				アオガエル科	モリアオガエル		●
1	爬虫類	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ		●	
2				クサガメ		●	
3				スッポン科	ニホンスッポン		●
4		有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ		●	
5			トカゲ科	ヒガシニホントカゲ		●	
6			ナミヘビ科	シロマダラ	●	●	
7				ヤマカガシ		●	
1	魚類	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	●	●	
2		コイ目	コイ科	カワムツ	●	●	
3					タモロコ		●
4				ドジョウ科	ドジョウ類		●
5					ニシシマドジョウ		●
6				フクドジョウ科	ホトケドジョウ		●
7					トウカイナガレホトケドジョウ		●
8			ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ		●
9		スズキ目	カジカ科	カマキリ		●	
10				カワアナゴ科	カワアナゴ		●
11				ハゼ科	ボウズハゼ	●	●
12					ヒナハゼ		●
13					カワヨシノボリ	●	●
14					ビリンゴ	●	
1	昆虫類	ゴキブリ目（網翅目）	オオゴキブリ科	オオゴキブリ		●	
2		カメムシ目（半翅目）	アメンボ科	オオアメンボ		●	
3				エサキアメンボ	●		
4			ミズムシ科（昆）	ミヅナシミズムシ		●	
5			コオイムシ科	コオイムシ	●	●	
6				タイコウチ		●	
7			タイコウチ科	ヒメタイコウチ		●	
8		チョウ目（鱗翅目）	セセリチョウ科	ホソバセセリ		●	
9			タテハチョウ科	コムラサキ		●	
10					ヒメジャノメ		●
11					サトキマダラヒカゲ	●	●
12			ヤガ科	エチゴハガタヨトウ本土亜種		●	
13		コウチュウ目（鞘翅目）	オサムシ科	<i>Jujiroa</i> 属 ※3		●	
14					オオトックリゴミムシ	●	●
15					セトナガゴミムシ		●
16			ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ		●	
17					コマルケシゲンゴロウ		●
18			コガシラミズムシ科	コガシラミズムシ		●	
19			ガムシ科	マルヒラタガムシ		●	
20					コガムシ		●
21			コガネムシ科	クロカナブン		●	
22			ホタル科	ヘイケボタル	●	●	
23		ハチ目（膜翅目）	セイボウ科	オオセイボウ		●	
24			アリ科	トゲアリ		●	
25			スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ		●	
26			クモバチ科	スギハラクモバチ		●	
27				アオスジクモバチ		●	

表 11-10-26(3) 予測対象種

No.	分類	目名	科名	種名	確認位置			
					直接変更区域	事業実施区域周辺		
1	底生動物	新生腹足目	タニシ科	マルタニシ	●	●		
2				オオタニシ		●		
3			ウミニナ科	ウミニナ		●		
4				トゲカワニナ科	タケノコカワニナ		●	
5			汎有肺目	ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ		●	
6					トウキョウヒラマキガイ		●	
7					ヒラマキガイモドキ		●	
8			イシガイ目	イシガイ科	ミナミタガイ		●	
9			マルスダレガイ目	フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ		●	
10			異帯目	オキナガイ科	ソトオリガイ		●	
11			エビ目	ベンケイガニ科	ベンケイガニ		●	
—			カメムシ目 (半翅目)	アメンボ科	オオアメンボ		●	
—					コオイムシ科	コオイムシ	●	●
—						タイコウチ科	タイコウチ	
—				コウチュウ目 (鞘翅目)	ゲンゴロウ科	ヒメタイコウチ		●
—						クロゲンゴロウ		●
—	コガシラミズムシ科	コマルケシゲンゴロウ				●		
—		コガシラミズムシ				●		
—		ガムシ科			マルヒラタガムシ		●	
—		コガムシ			●			
1	クモ類	クモ目		ジグモ科	ワスレナグモ		●	
2			カネコトタテグモ科	カネコトタテグモ	●	●		
3			トタテグモ科	キノボリトタテグモ		●		
4			コガネグモ科	ニシキオニグモ		●		
5				オニグモ		●		
6				ゲホウグモ		●		
1	陸産貝類	オキナエビス目	ゴマオカタニシ科	ゴマオカタニシ		●		
2		マイマイ目	オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ		●		
3				クチミゾガイ科	ナニワクチミゾガイ		●	
4			キセルガイモドキ科	キセルガイモドキ		●		
5			キセルガイ科	オオギセル		●		
6				ミカワギセル		●		
7				ホソヤカギセル		●		
8				ハチノコギセル		●		
9				ナタネガイ科	ミジンナタネ		●	
10			ベッコウマイマイ科	ウラウズタカキビ	●	●		
11				ヒゼンキビ		●		
12				ウメムラシタラガイ		●		
13				ヒメカサキビ		●		
14			ニッポンマイマイ科	ビロウドマイマイ		●		
15				サンエンマイマイ		●		
16				オナジマイマイ科	カドコオオベソマイマイ		●	

- ※1 「ヒナコウモリ科①」は、ヤマコウモリもしくはヒナコウモリの可能性があります。
 - ※2 「ヒナコウモリ科②」は、モモジロコウモリの可能性があります。
 - ※3 *Jujiroa* 属はジャアナヒラタゴミムシ、ホラズミヒラタゴミムシ、イノウエアナヒラタゴミムシのいずれかの可能性があり、前2種が重要な種に該当します。
 - ※4 最新知見から当該地域に分布するタガイ属は「ミナミタガイ(新称)」と考えられており、本報告はそれに倣いました。「レッドデータブックあいち2020-動物編」(2020年、愛知県)では、旧分類のタガイ及びヌマガイをまとめた「ドブガイ」が準絶滅危惧(NT)、「レッドリストあいち2025」では情報不足(DD)に見直された」と判定されているため、旧分類のタガイに含まれる本種も同カテゴリーとして扱いました。
- : 昆虫類の項目で予測する底生動物調査で確認された種を示します。

2) 予測の結果

① 予測結果の概要

動物の重要な種の予測結果の概要は表 11-10-27(1)～(5)に示すとおりです。

生息環境への影響については、図 11-10-9 の手順により、以下のように整理しました。

A：生息環境への影響の程度が大きい

B：生息環境への影響がある

C：生息環境への影響は極めて小さい

D：生息環境への影響がない

表 11-10-27(1) 重要な種の予測結果概要

分類	No.	種名	主な生息環境	確認位置※5		生息地への影響	
				直接改変区域	事業実施区域周辺	工事の実施	存在・供用
哺乳類	1	キクガシラコウモリ	樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園		●	C	C
	2	ヒナコウモリ科①※1	樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、水田、緑の多い住宅地・公園・墓地等及び開放水域（河川、溜池）	●	●	C	C
	3	ヒナコウモリ科②※2	樹林地（人工林以外）、果樹園、水田及び開放水域（河川、溜池）	●	●	C	C
	4	ノウサギ	樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、畑地、草地		●	C	C
	5	ムササビ	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	6	カヤネズミ	果樹園、草地、畑地及び水田		●	C	C
	7	テン（ホンドテン）	樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園	●	●	C	C
	8	アナグマ	樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園		●	C	C
	9	カモシカ	樹林地（人工林以外）、人工林		●	C	C

表 11-10-27(2) 動物の重要な種の予測結果概要

分類	No.	種名	主な生息環境	確認位置※5		生息地への影響	
				直接改変区域	事業実施区域周辺	工事の実施	存在・供用
鳥類	1	オシドリ	樹林地（人工林以外）及び開放水域（河川、溜池）		●	C	C
	2	キンクロハジロ	開放水域（河川、溜池）		●	C	D
	3	ミゾゴイ	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	4	ゴイサギ	開放水域（河川、溜池）、樹林地（人工林以外）、水田		●	C	C
	5	チュウサギ	開放水域（河川、溜池）、樹林地（人工林以外）、水田		●	C	C
	6	コサギ	開放水域（河川、溜池）、水田、草地（陸水域）及び人工林の水辺環境		●	C	C
	7	ヒクイナ	樹林地（人工林以外）、水田及び草地（陸水域）の水辺環境		●	C	C
	8	バン	水田及び草地（陸水域）		●	C	C
	9	ツツドリ	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	10	ヨタカ	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	11	ハリオアマツバメ	主要な生息環境としていない		●	D	D
	12	アマツバメ	主要な生息環境としていない		●	D	D
	13	ケリ	草地、畑地、水田及び草地（陸水域）	●	●	C	C
	14	イカルチドリ	草地、水田及び開放水域（河川）の河川敷		●	C	C
	15	ヤマシギ	樹林地（人工林以外）、人工林、草地、果樹園、畑地、水田、緑の多い住宅地等		●	C	C
	16	タマシギ	水田、草地（陸水域）		●	C	C
	17	ミサゴ	開放水域（河川、溜池）	—	—	C	D
	18	ハチクマ	樹林地（人工林以外）、人工林		●	B	B
	19	ハイタカ	草地、果樹園、畑地、水田、緑の多い住宅地等	—	—	C	C
	20	オオタカ	樹林地（人工林以外）、人工林		●	C	C
	21	サシバ	樹林地（人工林以外）、人工林、草地、果樹園、畑地、水田	—	—	C	C
	22	クマタカ	樹林地（人工林以外）、人工林、草地、果樹園、畑地、水田	—	—	C	C
	23	オオコノハズク	主要な生息環境としていない	—	—	D	D
	24	コノハズク	主要な生息環境としていない	—	—	D	D
	25	フクロウ	樹林地（人工林以外）、緑の多い住宅地等		●	B	B
	26	アオバズク	樹林地（人工林以外）、緑の多い住宅地等		●	B	B
	27	アリスイ	樹林地（人工林以外）、草地、果樹園、畑地、水田		●	C	C
	28	ハヤブサ	草地、果樹園、畑地、水田、緑の多い住宅地等	—	—	C	C
	29	サンショウクイ	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	30	サンコウチョウ	樹林地（人工林以外）、人工林		●	C	C
	31	コシアカツバメ	果樹園、畑地、水田、緑の多い住宅地等、開放水域（河川）		●	C	C
	32	オオムシクイ	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	33	ミソサザイ	樹林地（人工林以外）及び人工林		●	C	C
	34	クロツグミ	樹林地（人工林以外）、人工林		●	C	C
	35	コサメビタキ	主要な生息環境としていない		●	D	D
	36	ビンズイ	果樹園		●	C	C
	37	カシラダカ	人工林、水田、畑地、果樹園		●	C	C

表 11-10-27(3) 動物の重要な種の予測結果概要

分類	No.	種名	主な生息環境	確認位置※5		生息地への影響	
				直接改変 区域	事業実施 区域周辺	工事の 実施	存在・ 供用
両生類	1	アカハライモリ	樹林地（人工林以外）、人工林、 果樹園及び水田	●	●	C	C
	2	アズマヒキガエル	樹林地（人工林以外）、人工林、 果樹園、水田及び緑の多い住宅 地・公園・墓地等		●	C	C
	3	ニホンアカガエル	樹林地（人工林以外）、人工林、 草地及び水田		●	C	C
	4	ネバタゴガエル	樹林地（人工林以外）、人工林		●	C	C
	5	トノサマガエル	樹林地（人工林以外）、人工林、 果樹園、水田、畑地及び開放水域 （河川、溜池）	●	●	C	C
	6	ツチガエル	樹林地（人工林以外）、果樹園、 水田、開放水域（河川、ため池）		●	C	C
	7	モリアオガエル	樹林地（人工林以外）、人工林、 水田及び開放水域（溜池）		●	C	C
爬虫類	1	ニホンイシガメ	開放水域（河川、溜池）、水田		●	C	C
	2	クサガメ	開放水域（河川、溜池）、水田		●	C	C
	3	ニホンスッポン	開放水域（河川、溜池）		●	C	D
	4	ニホンヤモリ	果樹園、緑の多い住宅地等、その 他市街地		●	C	C
	5	ヒガシニホントカゲ	樹林地（人工林以外）、人工林、 草地、果樹園、畑地、水田及び緑 の多い住宅地等		●	C	C
	6	シロマダラ	樹林地（人工林以外）、人工林、 草地、果樹園、畑地、水田及び緑 の多い住宅地等	●	●	C	C
	7	ヤマカガシ	樹林地（人工林以外）、果樹園、 水田、草地（陸水域）の水辺環境		●	C	C
魚類	1	ニホンウナギ	開放水域（河川、溜池）	●	●	C	D
	2	カワムツ	開放水域（河川）、水田水路	●	●	C	C
	3	タモロコ	開放水域（河川、溜池）、水田水 路		●	C	C
	4	ドジョウ	開放水域（河川、溜池）、水田水 路		●	C	C
	5	ニシマドジョウ	開放水域（河川）、水田水路		●	C	C
	6	ホトケドジョウ	水田水路		●	C	C
	7	トウカイナガレホトケドジョウ	沢		●	B	B
	8	ミナミメダカ	開放水域（河川）、水田水路		●	C	C
	9	カマキリ	開放水域（河川）	●	●	C	D
	10	カワアナゴ	開放水域（河川）	●	●	C	D
	11	ボウズハゼ	開放水域（河川）、水田水路	●	●	C	C
	12	ヒナハゼ	開放水域（河川）		●	C	D
	13	カワヨシノボリ	開放水域（河川、溜池）、水田水 路	●	●	C	C
	14	ビリンゴ	開放水域（河川）	●		C	D

表 11-10-27(4) 動物の重要な種の予測結果概要

分類	No.	種名	主な生息環境	確認位置※5		生息地への影響	
				直接改変 区域	事業実施 区域周辺	工事の 実施	存在・ 供用
昆虫類	1	オオゴキブリ	樹林地（人工林以外）、人工林、 果樹園		●	C	C
	2	オオアメンボ	開放水域（河川、溜池）		●	C	D
	3	エサキアメンボ	開放水域（溜池）	●		C	C
	4	ミゾナシミズムシ	開放水域（溜池）及び草地（陸水 域）		●	C	C
	5	コオイムシ	水田及び開放水域（河川、溜池）	●	●	C	C
	6	タイコウチ	水田及び開放水域（河川、溜池）		●	C	C
	7	ヒメタイコウチ	梅田北湿地及びその周辺の小規模 な湿地環境		●	C	D
	8	ホソバセセリ	人工林及び草地		●	C	C
	9	コムラサキ	開放水域（河川）の河畔林		●	D	D
	10	ヒメジャノメ	樹林地（人工林以外）、人工林、 果樹園、水田及び草地		●	C	C
	11	サトキマダラヒカゲ	樹林地（人工林以外）、人工林、 果樹園、水田及び開放水域（河 川）の河畔林	●	●	C	C
	12	エチゴハガタヨトウ本土亜種	樹林地（人工林以外）、人工林		●	C	C
	13	<i>Jujiroa</i> 属※3	樹林地（人工林以外）及び人工林		●	C	C
	14	オオトックリゴミムシ	水田及び開放水域（溜池）		●	C	C
	15	セトナガゴミムシ	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	16	クロゲンゴロウ	水田及び開放水域（溜池）		●	C	C
	17	コマルケシゲンゴロウ	水田及び開放水域（溜池）		●	C	C
	18	コガシラミズムシ	開放水域（溜池）		●	C	C
	19	マルヒラタガムシ	開放水域（溜池）		●	C	C
	20	コガムシ	水田		●	C	C
	21	クロカナブン	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	22	ヘイケボタル	水田水路及び開放水域（河川、溜 池）	●	●	C	C
	23	オオセイボウ	樹林地（人工林以外）、人工林、 草地、緑の多い住宅地等		●	C	C
	24	トゲアリ	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	25	ヤマトアシナガバチ	樹林地（人工林以外）、人工林、 草地、緑の多い住宅地等		●	C	C
	26	スギハラクモバチ	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	27	アオスジクモバチ	草地及び開放水域（河川）の河川 敷		●	C	C
底生 動物	1	マルタニシ	水田及び開放水域（河川、溜池）	●	●	C	C
	2	オオタニシ	開放水域（河川、溜池）		●	C	D
	3	ウミニナ	開放水域（河川）		●	C	D
	4	タケノコカワニナ	開放水域（河川）	●	●	C	D
	5	ヒラマキミズマイマイ	水田及び開放水域（河川、溜池）		●	C	C
	6	トウキョウヒラマキガイ	開放水域		●	C	D
	7	ヒラマキガイモドキ	水田及び開放水域（河川、溜池）		●	C	C
	8	ミナミタガイ※4	水田及び開放水域（河川、溜池）		●	C	C
	9	ウネナシトマヤガイ	開放水域（河川）		●	C	D
	10	ソトオリガイ	開放水域（河川）		●	C	D
	11	ベンケイガニ	開放水域（河川）		●	C	C

表 11-10-27(5) 動物の重要な種の予測結果概要

分類	No.	種名	主な生息環境	確認位置※5		生息地への影響	
				直接改変区域	事業実施区域周辺	工事の実施	存在・供用
クモ類	1	ワスレナグモ	草地、畑地、樹林地（人工林以外）、緑の多い住宅地等		●	C	C
	2	カネコトタテグモ	樹林地（人工林以外）、人工林、草地、果樹園、緑の多い住宅地等	●	●	C	C
	3	キノボリトタテグモ	樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、緑の多い住宅地等		●	C	C
	4	ニシキオニグモ	樹林地（人工林以外）、緑の多い住宅地等		●	C	C
	5	オニグモ	樹林地（人工林以外）、緑の多い住宅地等		●	C	C
	6	ゲホウグモ	樹林地（人工林以外）、人工林、緑の多い住宅地等		●	C	C
陸産 貝類	1	ゴマオカタニシ	樹林地（人工林以外）、人工林		●	C	C
	2	ナガオカモノアラガイ	水田、草地（陸水域）		●	C	C
	3	ナニワクチミゾガイ	緑の多い住宅地・公園・墓地等		●	C	C
	4	キセルガイモドキ	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	5	オオギセル	樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、緑の多い住宅地・公園・墓地等		●	C	C
	6	ミカワギセル	樹林地（人工林以外）、果樹園及び緑の多い住宅地・公園・墓地等		●	C	C
	7	ホソヤカギセル	樹林地（人工林以外）、果樹園及び緑の多い住宅地・公園・墓地等		●	C	C
	8	ハチノコギセル	樹林地（人工林以外）、人工林		●	C	C
	9	ミジンナタネ	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	10	ウラウズタカキビ	樹林地（人工林以外）、人工林	●	●	C	C
	11	ヒゼンキビ	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	12	ウメムラシタラガイ	樹林地（人工林以外）、人工林		●	C	C
	13	ヒメカサキビ	樹林地（人工林以外）、人工林		●	C	C
	14	ビロウドマイマイ	樹林地（人工林以外）		●	C	C
	15	サンエンマイマイ	樹林地（人工林以外）、人工林		●	C	C
	16	カドコオオベソマイマイ	樹林地（人工林以外）、人工林		●	C	C

※1 「ヒナコウモリ科①」は、ヤマコウモリもしくはヒナコウモリの可能性があります。

※2 「ヒナコウモリ科②」は、モモジロコウモリの可能性があります。

※3 *Jujiroa* 属はジャアナヒラタゴミムシ、ホラズミヒラタゴミムシ、イノウエアナヒラタゴミムシのいずれかの可能性があり、前2種が重要な種に該当します。

※4 最新知見から当該地域に分布するタガイ属は「ミナミタガイ(新称)」と考えられており、本報告はそれに倣いました。「レッドデータブックあいち2020-動物編-」(2020年、愛知県)では、旧分類のタガイ及びヌマガイをまとめた「ドブガイ」が準絶滅危惧(NI)と判定されているため、旧分類のタガイに含まれる本種も同カテゴリーとして扱いました。

※5 猛禽類であるミサゴ、ハチクマ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、クマタカ、オオコノハズク、コノハズク、フクロウ、アオバズク、ハヤブサについては、営巣地の確認位置を示します。「-」は個体の確認はされていますが、営巣地がないことを示します。

② 予測結果

(a) 哺乳類

予測地域に生息すると考えられる重要な哺乳類の予測結果は、表 11-10-28(1)～(9)に示すとおりです。

表 11-10-28(1) 重要な哺乳類の予測結果(キクガシラコウモリ)

項目	内容	
生態	頭胴長 53～82mm、尾長 28～45 mm、体重 17～35g。休眠場所としては、内部が狭く曲がりくねった洞窟や、内部が広い溶岩洞窟など様々な洞窟を利用する他、廃屋なども利用することがある。夜間は森林内などを飛翔し、ガ類などの飛翔性昆虫類などを捕食する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 5 地点で 5 個体、人工林において 3 地点で 7 個体、果樹園において 2 地点で 2 個体、草地において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R4 春季、R4 夏季、R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：11 地点 15 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林及び果樹園であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林及び果樹園は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林及び果樹園は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-28 (2) 重要な哺乳類の予測結果(ヒナコウモリ科の一種①(ヤマコウモリ、もしくはヒナコウモリの可能性が想定される))

項目	内容	
生態	<p><ヤマコウモリ>前腕長 57~65mm、頭胴長 79~108mm。樹洞のある大木のある天然林や人工林(社寺林など)に生息する。夜間上空を高速で飛びながら昆虫類を捕食するが、鳥類を捕食する場合もある。</p> <p><ヒナコウモリ>前腕長 44~54mm、頭胴長 60~79mm。日中のねぐらは樹洞や家屋などの人工物を利用し、夜間、比較的高空を飛翔して昆虫類を採餌する。近年、新幹線高架を集団で出産哺育や越冬に利用していることが判明している¹⁾。</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地(人工林以外)において1地点で1個体、人工林において1地点で1個体、果樹園において2地点で2個体、水田において4地点で5個体、緑の多い住宅地・公園・墓地等において1地点で1個体、河川において、1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：2地点2個体 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：8地点9個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地(人工林以外)、人工林、果樹園、水田、緑の多い住宅地・公園・墓地等及び開放水域(河川、溜池)であると考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)、人工林、果樹園、水田、緑の多い住宅地・公園・墓地等及び開放水域(河川、溜池)は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)、人工林、果樹園、水田、緑の多い住宅地・公園・墓地等及び開放水域(河川、溜池)は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック<動物編>—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-10-28(3) 重要な哺乳類の予測結果(ヒナコウモリ科の一種②(モモジロコウモリの可能性が想定される))

項目	内容	
生態	<p><モモジロコウモリ>前腕長 34~42mm、頭胴長 40~63mm。国内では北海道、本州、四国、九州、佐渡島、対馬に分布する。日中のねぐらは主に洞窟であるが、河川敷などの石の下で発見された例もある。初夏に洞窟内で 50~500 頭の出産哺育集団を形成する。ガヤカゲロウなどの飛翔昆虫を主要な餌とする。静岡県内では南出町、松崎町、河津町、藤宮市、静岡市、川根本町、菊川市、掛川市、浜松市の 9 市町で確認され、過去には伊藤市、長泉町、磐田市でも記録がある。海岸近くから南アルプスの標高約 1,400m まで分布する。石切場跡、廃坑、溶岩洞窟、石灰岩洞窟、隧道、用水路トンネルなどで休眠が確認され、河川沿いなどの森林内では飛翔個体が捕獲されている。多数の個体を確認されたのは廃隧道、石切場跡、溶岩洞窟で、いずれも比較的内部空間が広い場所であった¹⁾。</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	<p>樹林地（人工林以外）において 4 地点で 7 個体、人工林において 3 地点で 6 個体、果樹園において 18 地点で 22 個体、畑地において 1 地点で 1 個体、水田において 3 地点で 3 個体、緑の多い住宅地・公園・墓地等において 1 地点で 2 個体、その他の市街地・工場地帯（道路）において 3 地点で 5 個体、開放水域（河川、溜池）において 1 地点で 2 個体、が確認された。</p>
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R6 春季、R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	<p>直接改変区域：1 地点 1 個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：33 地点 47 個体</p>
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、水田、緑の多い住宅地・公園・墓地等及び開放水域（河川、溜池）であると考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、水田、緑の多い住宅地・公園・墓地等及び開放水域（河川、溜池）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、果樹園、水田及び開放水域（河川、溜池）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック<動物編>－」（静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-28(4) 重要な哺乳類の予測結果(ノウサギ)

項目	内容	
生態	体重 1,300～2,500g、頭胴長 430～540mm、尾長 20～50mm。平野部から山地にかけての森林・平原・河川敷などに生息し、夏は緑草、冬は樹皮や枝先も食べる。主に夜行性で巣穴は掘らず、春から夏まで3～5回出産する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において11地点で19個体、人工林において6地点で19個体、果樹園において、4地点で4個体、水田において1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R3 冬季、R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：22地点 43個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、草地、畑地であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、草地、畑地は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、草地、畑地は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種は調査区域内において、繁殖や採餌等のために生息環境を広く移動していると考えられる。本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、畑地、草地のほとんどはトンネル構造で通過し、土工部にはカルバート等が設置されることから、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。また、侵入防止柵が設置されることでロードキルの発生が抑制される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-28(5) 重要な哺乳類の予測結果(ムササビ)

項目	内容	
生態	頭胴長 27～48 cm、尾長 28～41 cm、体重 700～1,300g。夜行性で、低地の社寺林から亜高山帯の天然林まで生息する。樹洞に営巣するため、樹洞ができるような広葉樹大径木のある森林が生息環境である。春と秋に 1～4 頭を出産する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 7 地点で 7 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季、R4 春季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：7 地点 7 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-28(6) 重要な哺乳類の予測結果(カヤネズミ)

項目	内容	
生態	頭胴長 50～80 mm、体重 7～14 g。低地の草地、水田、休耕田、沼沢地、荒地などイネ科植物が生育するところを好む。低地の草地などに、ススキの葉などを用いて鳥の巣のような球形の巣を作る。春と秋の年2回の繁殖期を持つが、地域により夏にも繁殖する。1回の産子数は2～8頭である ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において1地点で1個、果樹園において3地点で3個、水田において1地点で1個の球巣が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 冬季、R3 春季、R3 春季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：一 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：5地点5個（球巣）
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、果樹園、草地、畑地及び水田であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である果樹園、草地、畑地及び水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である果樹園、草地、畑地及び水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-28 (7) 重要な哺乳類の予測結果(テン(ホンドテン))

項目	内容	
生態	頭胴長 410～490mm、尾長 170～233mm。森林に生息し、木登りが得意で、通常は樹洞に営巣するが、人家の天井などを利用することもある。食物はネズミなどの小哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、果実類などである。特に秋にはサルナシやアケビなどの漿果を大量に食べる ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において8地点で8個体、人工林において4地点で4個体、果樹園において5地点で5個体、水田において1地点で1個体、緑の多い住宅地・公園・墓地等において1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R3 冬季、R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：1地点1個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：18地点18個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林及び果樹園であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林及び果樹園は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林及び果樹園は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種は調査地域内において、繁殖や採餌等のために生息環境を広く移動していると考えられる。本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林及び果樹園のほとんどはトンネル構造で通過し、土工部にはカルバート等が設置されることから、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。また、侵入防止柵が設置されることでロードキルの発生が抑制される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-28(8) 重要な哺乳類の予測結果(アナグマ)

項目	内容	
生態	頭胴長 440～680mm、尾長 116～180mm。低山帯の森林や低木林に巣穴のトンネルを掘って生活している。巣穴には血縁の家族群ですみ、ミミズ類、昆虫類、両生類、果実類などを食べる。繁殖期は春で、1回に1～4仔を産む。完全な夜行性なので、アナグマの巣穴の使用状態を知るには、巣穴の入り口に立てかけた木の枝が翌朝動いているか見ればよい ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において2地点で2個体、人工林において1地点で1個体、果樹園において2地点で2個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：5地点5個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林及び果樹園は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林及び果樹園は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種は調査地域内において、繁殖や採餌等のために生息環境を広く移動していると考えられる。本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林及び果樹園のほとんどはトンネル構造で通過し、土工部にはカルバート等が設置されることから、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。また、侵入防止柵が設置されることでロードキルの発生が抑制される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-28(9) 重要な哺乳類の予測結果(カモシカ)

項目	内容	
生態	主にブナ、ミズナラなどの落葉広葉樹林や針広混交林に生息する。各種木本類の枝、葉、草本類などを食べる草食性であり、ニホンジカと共通するものも多い。基本的には一夫一婦制で、1産1仔。数 ha～100ha 程度のなわばりを形成する ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において、5地点で5個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 冬季、R3 春季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：5地点5個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 本種は調査地域内において、繁殖や採餌等のために生息環境を広く移動していると考えられる。本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林のほとんどはトンネル構造で通過し、土工部にはカルバート等が設置されることから、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。また、侵入防止柵が設置されることでロードキルの発生が抑制される。 以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「京都府レッドデータブック2015」（京都府環境部自然環境保全課、平成27年7月）

(b) 鳥類

予測地域に生息すると考えられる重要な鳥類の予測結果は、表 11-10-29(1)～(37)に示すとおりです。

表 11-10-29(1) 重要な鳥類の予測結果(オシドリ)

項目	内容	
生態	全長 45cm。主に冬鳥として全国に飛来するが、北海道や本州では繁殖しており、九州や沖縄でもごく少数の繁殖記録がある。大木の樹洞や橋のトラスなどに営巣し、ヒナは孵化するとすぐに地上に飛び降りる。冬期は比較的広い河川や池沼で越冬し、時には海上で見られることもある。主に植物食で水草などを食べるが、ドングリも好んで食べる ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 1 地点で 8 個体が確認された。
	確認時期	R3 冬季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 8 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）及び開放水域（河川、溜池）の水辺環境であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び開放水域（河川、溜池）の水辺環境のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。樹林地（人工林以外）の水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び開放水域（河川、溜池）の水辺環境のうち、開放水域（河川、溜池）直接改変されない。樹林地（人工林以外）の水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-29(2) 重要な鳥類の予測結果(キンクロハジロ)

項目	内容	
生態	全長約 38～44cm。極東ロシアからスカンジナビア半島までのユーラシア大陸北部で繁殖する ¹⁾ 。日本には全土に冬鳥として渡来し、本州、四国、九州で越冬する。北海道の道東部では少数が繁殖する。湖沼、大きい河川、潟湖、内湾、河口などでしばしば大群で過ごし、特に春の渡り期には数千～数万羽の大群になる。水中に潜水して、主として巻貝類や二枚貝類をとり、水中で呑み込んでしまう。巣はコロニーへ集まるが、カモメやアジサシ類のコロニー内につくこともある ²⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	開放水域において1地点で2個体が確認された。
	確認時期	R3 冬季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点2個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，鳥類」（環境省、令和8年3月）

2) 「原色日本野鳥生態図鑑〈水鳥編〉」（保育社、平成7年3月）

表 11-10-29(3) 重要な鳥類の予測結果(ミゾゴイ)

項目	内容	
生態	全長約 50cm。夏鳥として 4 月中・下旬頃に渡来する。丘陵や低山の、沢のあるよく繁った広葉樹林などの暗い森林を好む。さえずる時間帯からは夜行性の傾向があるが、繁殖地など暗く深い林中では昼間に採餌する。サワガニ、魚類、水生昆虫、ミミズなどを餌にする ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 5 地点で 5 個体、果樹園において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 早春季、R3 春季
	確認位置	直接改変区域：古巣 1 地点（落巢） 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：6 地点 6 個体、古巣 1 地点
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の古巣のうち 1 箇所は直接改変されない。1 箇所は直接改変により消失するが、すでに巣は落巢しており、周辺には営巣に適した樹林地（人工林以外）が広く残されることから、本種の営巣環境への影響は極めて小さいと予測される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の古巣のうち 1 箇所は直接改変されない。1 箇所は直接改変により消失するが、すでに巣は落巢しており、周辺には営巣に適した樹林地（人工林以外）が広く残されることから、本種の営巣環境への影響は極めて小さいと予測される。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29(4) 重要な鳥類の予測結果(ゴイサギ)

項目	内容	
生態	全長約 57cm。海岸付近から丘陵地の水田、池沼、河川、湿地などを採餌地とし、林にコロニーを形成する。夜行性であるが、育雛期には昼間も採餌をする。魚類、甲殻類、両生類、昆虫類などを餌にする。主に夏鳥として渡来するが留鳥として越冬するものもいる ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において1地点で1個体、果樹園において2地点で2個体、開放水域において1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：4地点4個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川、溜池）、樹林地（人工林以外）及び水田であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）、樹林地（人工林以外）及び水田のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。樹林地（人工林以外）及び水田は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）、樹林地（人工林以外）及び水田のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。樹林地（人工林以外）及び水田は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29(5) 重要な鳥類の予測結果(チュウサギ)

項目	内容	
生態	全長は約56～72cm。日本では基亜種 <i>E. i. intermedia</i> がおもに本州以南に夏鳥として生息し、冬には南方に渡る。水辺の草むらや水田でおもに昆虫類、そのほか両生・肥虫類、魚類なども食べる。4～8月に樹上に巣を造り、コロニーで繁殖する。かつてはシラサギ類コロニーでは優占種であったが、1970作代以降は全国的に減少した ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において1地点で3個体、水田において2地点で2個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：3地点5個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川、溜池）、樹林地（人工林以外）及び水田であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）、樹林地（人工林以外）及び水田のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。樹林地（人工林以外）及び水田は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）、樹林地（人工林以外）及び水田のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。樹林地（人工林以外）及び水田は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「環境省レッドデータブック2014 2鳥類」（環境省、平成26年9月）

表 11-10-29(6) 重要な鳥類の予測結果(コサギ)

項目	内容	
生態	全長約 61cm。日本では主に留鳥。海岸から内陸の水辺。河川、湖沼、水田、干潟等の浅い水辺で、ドジョウ等の魚類、カエル、ザリガニ、昆虫等を食べる。繁殖期は平地の樹林や竹林に多くは他の集団繁殖性サギ類と混合でコロニーを形成して繁殖し、夜間もコロニーでねぐらをとる場合が多い。非繁殖期には河川や湖沼の岸の樹上や杭上、湿地等で集団ねぐらをとる。山間部の水辺でも見られる一方で、都市域の小河川や公園等の小さな池も利用する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	人工林において1地点で1個体、水田において3地点で9個体、草地(陸水域)において2地点で2個体、開放水域において4地点で6個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 冬季、R3 春季、R3 夏季、R7 冬季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：10地点 18個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域(河川、溜池)、水田、草地(陸水域)及び人工林の水辺環境であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域(河川、溜池)、水田、草地(陸水域)及び人工林のうち、開放水域(河川、溜池)及び草地(陸水域)は直接改変されない。水田及び人工林は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域(河川、溜池)、水田、草地(陸水域)及び人工林のうち、開放水域(河川、溜池)及び草地(陸水域)は直接改変されない。水田及び人工林は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，鳥類」(環境省、令和8年3月)

表 11-10-29(7) 重要な鳥類の予測結果(ヒクイナ)

項目	内容	
生態	全長約 23cm。国内では北海道から沖縄までの全国で繁殖し、静岡県内では湿地の多い西部地域に集中して広く生息する。池沼や河川敷、養鰻場跡地など、ヨシやマコモなどの生えた湿地、ハス田により多く生息する。餌は昆虫類、両生類、腹足類などのほかにイネ科の種子などである ¹⁾ 。繁殖期は 4 月から 10 月頃で、イネ科の株の中などに営巣する ²⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 3 地点で 3 個体、果樹園において 1 地点で 1 個体、水田において 5 地点で 5 個体が、草地（陸水域）において 1 地点で 1 個体確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 冬季、R3 早春季、R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：10 地点 10 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、水田及び草地（陸水域）の水辺環境であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、水田及び草地（陸水域）の水辺環境のうち、草地（陸水域）は直接改変されない。樹林地（人工林以外）及び水田の水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、水田及び草地（陸水域）の水辺環境のうち、草地（陸水域）は直接改変されない。樹林地（人工林以外）及び水田の水辺環境は、直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-29 (8) 重要な鳥類の予測結果(バン)

項 目	内 容	
生態	全長 32cm。本州中部以北では主に夏鳥であるがそれより南では留鳥である。主に平地や沿岸部、丘陵地の池沼、水路、河川のヨシ原や水田などに生息して繁殖する。ヨシやガマなどの水草に、茎や葉などを絡めて巣を作る。食性は昆虫や小魚、両生類などの他に、水草などの植物も食べる雑食である ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	周辺に水田が広がる草地（陸水域）において、1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 冬季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田及び草地（陸水域）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び草地（陸水域）のうち、草地（陸水域）は直接改変されない。水田は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び草地（陸水域）のうち、草地（陸水域）は直接改変されない。水田は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-29(9) 重要な鳥類の予測結果(ツツドリ)

項目	内容	
生態	全長 32cm。夏期に九州以北に飛来して繁殖する。4 月中下旬に飛来して 8 月から 10 月にかけて飛去する。落葉樹林や針広混交林を好む。主にセンダイムシクイに託卵して繁殖し、托卵相手であるセンダイムシクイの繁殖期から推測すると、本種の繁殖期も 5 月中旬以降と思われる ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において、1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-29(10) 重要な鳥類の予測結果(ヨタカ)

項目	内容	
生態	全長 29cm。国内では夏鳥として渡来し、九州以北の平地から山地の林に生息する。県内では標高 300m から 1,000m 程度の山間部での記録が多いが、生息域は縮小し、その数は総じて減少傾向にある。細長い翼と長めの尾をもつ横長の体形で、樹枝に平行に止まって眠り、飛翔は速く、昼間であれば翼の白斑がよく目立つ。夜間、飛びながら昆虫を捕食する ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）に隣接する果樹園において、1地点で夜間に飛翔する1個体が確認された。
	確認時期	R3 春季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点1個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29(11) 重要な鳥類の予測結果(ハリオアマツバメ)

項目	内容	
生態	全長約 20cm。日本には本州中部以北に 4～10 月に夏鳥として飛来し、主に北海道で繁殖。海岸沿岸部、低標高地から高標高地までの市街地から森林地帯まで様々な環境で見られる。空中で飛翔性昆虫を採食し、通常は繁殖巣への帰巣を除いて日中は飛び続けていると考えられ、夜間は樹洞内や樹木にとまって寝ると考えられている ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	令和 2 年～令和 7 年の鳥類（一般鳥類）調査では、人工林の 1 地点において、上空を飛翔する 4 個体が確認されたのみである。
	確認時期	R2 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 4 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、本種は調査地域を主な生息環境としていないと考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は調査地域内を主な生息環境としていない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は調査地域内を主な生息環境としていない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，鳥類」（環境省、令和8年3月）

表 11-10-29(12) 重要な鳥類の予測結果(アマツバメ)

項目	内容	
生態	<p>全長約 18～21cm。日本には、本州以南に夏鳥として渡来し、高山や海岸の崖に巣をつくる。希に橋などの人工物の隙間に営巣することがある。広範囲を移動して、空中で飛翔性昆虫を採食する¹⁾。</p> <p>本州中部では標高 2,300～3,100m ぐらいの高山帯に生息し、採食時には標高 500m ぐらいの山麓にも飛来する。春と秋の渡りの時期には、高空を群れて飛ぶ姿を各地で見ることができる²⁾。</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 1 地点で 3 個体、人工林において 1 地点で 20 個体の、それぞれ上空を飛翔する個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 夏季
	確認位置	直接変更区域：— 事業実施区域周辺（直接変更区域外）：2 地点 23 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、本種は調査地域を主な生息環境としていないと考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は調査地域内を主な生息環境としていない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は調査地域内を主な生息環境としていない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，鳥類」（環境省、令和8年3月）

2) 「原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉」（保育社、平成7年2月）

表 11-10-29(13) 重要な鳥類の予測結果(ケリ)

項目	内容	
生態	全長約 36cm。黄色く長い足が特徴的なチドリ類。国内では、全国的に観察され、九州以北から本州にかけて繁殖するが局地的。本州北部の個体は夏鳥として渡来する。繁殖期は3月から6月。耕作地、休耕地、放棄水田、河川敷、草地を利用して繁殖する。繁殖地として耕作地をよく利用するため、耕作方法や耕作時期の変化などにより、繁殖に影響を受けている可能性がある ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	果樹園において3地点で8個体、畑地において1地点で1個体、水田において19地点で36個体、開放水域において1地点で2個体、草地（陸水域）において1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 冬季、R3 早春季、R3 春季、R3 夏季、R6 春季、R7 冬季
	確認位置	直接変更区域：2地点 2個体 事業実施区域周辺（直接変更区域外）：23地点 46個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、草地、畑地、水田及び草地（陸水域）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である草地、畑地、水田及び草地（陸水域）のうち、草地（陸水域）は直接変更されない。草地、畑地、水田は直接変更により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である草地、畑地、水田及び草地（陸水域）のうち、草地（陸水域）は直接変更されない。草地、畑地、水田は直接変更により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「環境省レッドデータブック2014 2鳥類」（環境省、平成26年9月）

表 11-10-29(14) 重要な鳥類の予測結果(イカルチドリ)

項目	内容	
生態	全長約 21cm。留鳥。主に砂礫の河川敷や中州のある環境に生息・繁殖するが、稀に広い埋立地で繁殖することもある。繁殖期は他のチドリ類より早く始まり、3～7月である。繁殖期以外には湖沼畔や水田に生息することもあるが、干潟や海岸に出ることは稀である。繁殖中はつがいごとに縄張りを構えて集団化しない ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	開放水域において、1地点で1個体、草地（陸水域）において、2地点で3個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 冬季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：3地点4個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、草地、水田及び開放水域（河川）の河川敷であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である草地、水田及び開放水域（河川）の河川敷のうち、開放水域（河川）の河川敷は直接改変されない。草地、水田は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である草地、水田及び開放水域（河川）の河川敷のうち、開放水域（河川）の河川敷は直接改変されない。草地、水田は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29(15) 重要な鳥類の予測結果(ヤマシギ)

項目	内容	
生態	全長約 34cm。本州中部以北で留鳥、本州中部以南では冬鳥として分布する ¹⁾ 。夜行性で ²⁾ 、平野部から山地の落葉樹林や針葉樹林のやや湿った林床、公園などの芝地、畑、水田、湿地、河川敷、竹林、果樹園、低山の谷戸環境などに生息する。長い嘴で主に地中のミミズなどを採食し、昆虫類の幼虫や陸産貝類なども採食する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	果樹園において、1地点で1個体、水田において、1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R3 冬季、R7 冬季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2地点2個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、草地、果樹園、畑地、水田、緑の多い住宅地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、草地、果樹園、畑地、水田、緑の多い住宅地等は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、草地、果樹園、畑地、水田、緑の多い住宅地等は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-29(16) 重要な鳥類の予測結果(タマシギ)

項目	内容	
生態	全長約 24cm。留鳥として、平地の淡水湿地、水田、河川敷、用水路、草地に生息する。繁殖期の観察は水田が主となり、冬期では河川敷、水路での観察例が多い。水田、休耕田で甲殻類、貝類、昆虫類の幼虫、ミミズなどを採食する。メスがさえずり、地味な色彩のオスが抱卵や育雛などを行う ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	水田において、1 地点で 1 個体、草地（陸水域）において、1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 早春季、R3 春季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2 地点 2 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田及び草地（陸水域）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び草地（陸水域）のうち、草地（陸水域）は直接改変されない。水田は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び草地（陸水域）のうち、草地（陸水域）は直接改変されない。水田は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29(17) 重要な鳥類の予測結果(ミサゴ)

項目	内容	
生態	<p>全長オス約 57cm、メス約 59cm で留鳥または冬鳥。北海道、本州、四国、九州に生息し繁殖する。秋には南に渡る個体もあり、冬期には繁殖していない地域でも観察される。海上、海岸、河川、湖、池など魚類を捕食できるところに広く生息する。</p> <p>県内でも、海岸や河川、ダム湖、ため池などに飛来する。伊豆では周年生息しており、繁殖が確認されている。他の地域でも周年見られる場所が多くなっている¹⁾。</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	令和2年～令和4年の鳥類（猛禽類）調査では、合計81例が確認された。
	確認時期	鳥類（猛禽類）調査における確認時期：R2 春季、R2 夏季、R2 秋季、R3 冬季、R3 春季、R3 夏季、R3 秋季、R4 冬季、R4 春季、R4 夏季
	確認位置 (営巣地の位置)	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：— 営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地なし
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。 ・本種の営巣地は調査地域内に存在しない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。 ・本種の営巣地は調査地域内に存在しない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29(18) 重要な鳥類の予測結果(ハチクマ) (1/2)

項 目	内 容	
生態	<p>全長オス約 57cm、メス約 60cm。本種の分布は、広葉樹林など自然性の高い林の広さと密接な関係があるといわれている。餌はハチの幼虫を主とする昆虫や、カエル、トカゲ等であることから、これらが多く生息する落葉広葉樹林、草地、山間の水田、湿地などが重要な生息環境となる。採餌のために営巣地から数 km 先まで出かけることも稀ではなく、生息地には多様な環境が含まれている。きわめて広範囲を飛行することから、生息はしていても営巣地が発見されることは稀である。もともと、静岡県には高密度で分布していたわけではないが、近年の減少傾向は顕著である。以前は常緑及び落葉広葉樹林が比較的多い西部の丘陵地で繁殖例が多かったが、現在の繁殖情報は極めて少ない。越冬地の中心は南東アジアであり、中国内陸部を通過する長距離の渡りをすることで知られている¹⁾。夏鳥として北海道、本州、四国、九州に飛来して繁殖し、アカマツやナラ類などの樹上に営巣する²⁾。</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	令和 2 年～令和 4 年の鳥類（猛禽類）調査では、合計 537 例が確認された。
	確認時期	鳥類（猛禽類）調査における確認時期：R2 春季、R2 夏季、R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R3 秋季、R4 春季、R4 夏季
	確認位置 （営巣地の位置）	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：4 つがい 5 営巣地 営巣地から直接改変区域までの距離：A ペア約 1.4km、B ペア約 3.3km、C ペア約 1.0km、D ペア約 259m
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林であると考えられる。</p>	

表 11-10-29(18) 重要な鳥類の予測結果(ハチクマ) (2/2)

項目	内容
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は低騒音型・低振動型の建設機械を使用することにより影響低減を図るため、建設機械の稼働等の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・Aペア、Bペア及びCペアの営巣地、営巣中心域及び高利用域は直接改変されない。 ・Dペアの営巣地は直接改変されない。一方、高利用域及び営巣中心域は直接改変により、一部が消失・縮小するが、計画路線は営巣中心域の端部を通過することから、改変は果樹園がほとんどであり、営巣中心域内の樹林は改変されない。ただし、営巣中心域内で工事が実施されることにより、繁殖活動に影響が生じる可能性がある。なお、営巣中心域内にはトンネル坑口が存在するが、工事箇所は営巣地の尾根の裏側にあり離隔があること、トンネル坑口付近での機械掘削工法の採用や爆薬の使用料の最小化等により衝撃音や振動の低減を図ることから、発破工等による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、Aペア、Bペア及びCペアについては、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測されるが、Dペアについては、本種の生息環境への影響があると予測される。
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種は長距離の渡りをすることで知られているが、現地調査において、本種の渡り途中の一時的な休息場利用は確認されていない。また、渡り時期の飛翔行動は高空であると考えられ、計画路線の構造は周辺に立地する人工構造物と比較して突出した高さではないことから、本種の移動空間は確保されるものと考えられる。 ・Aペア、Bペア及びCペアの営巣地、営巣中心域及び高利用域は直接改変されない。 ・Dペアの営巣地は直接改変されない。一方、高利用域及び営巣中心域は直接改変により、一部が消失・縮小するが、計画路線は営巣中心域の端部を通過することから、改変は果樹園がほとんどであり、営巣中心域内の樹林は改変されない。ただし、営巣中心域内で工事が実施されることにより、繁殖活動に影響が生じる可能性がある。 ・以上より、Aペア、Bペア及びCペアについては、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測されるが、Dペアについては、本種の生息環境への影響があると予測される。

- 1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）
- 2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020—動物編—」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-29(19) 重要な鳥類の予測結果(ハイタカ)

項目	内容	
生態	全長オス約30cm、メス約37cm。留鳥または冬鳥。営巣地は標高のやや高い山地の林で、中型のタカよりもやや密な林を利用する。採餌には林縁や開放的な環境も利用している。本州中部以北で繁殖し、冬季は全国で見られる。冬期に観察されるものは、茶畑、果樹園やその周囲の林、時には水田や市街地上空などで小鳥を狩る ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	令和2年～令和4年の鳥類(猛禽類)調査では、合計132例が確認された。
	確認時期	鳥類(猛禽類)調査における確認時期：R4 冬季、R4 春季
	確認位置 (営巣地の位置)	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：— 営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地なし
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、草地、果樹園、畑地、水田、緑の多い住宅地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である草地、果樹園、畑地、水田、緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画とすることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の営巣地は調査地域内に存在しない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である草地、果樹園、畑地、水田、緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の営巣地は調査地域内に存在しない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-10-29(20) 重要な鳥類の予測結果(オオタカ)

項目	内容	
生態	全長オス約 50cm、メス約 56cm。繁殖は近畿以北で確認され、留鳥だが幼鳥は分散のため移動する。平野部から低山の里山環境が生息適地だが、海岸林や山間地に生息するものもある。森林性のタカであり、主に林内や林縁部で狩りをする。餌は主に小～中型の鳥類で、ハト類が多い。営巣地では樹齢が高く林内に十分な飛翔空間がある林の大径木に架巢することが多いが、比較的密な林の林縁近くに架巢することもある ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	令和2年～令和4年の鳥類(猛禽類)調査では、合計272例が確認された。
	確認時期	鳥類(猛禽類)調査における確認時期：R2 春季、R2 夏季、R3 冬季、R3 春季、R3 夏季、R3 秋季、R4 冬季、R4 春季、R4 夏季
	確認位置(営巣地の位置)	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2つがい3営巣地 営巣地から直接改変区域までの距離：Aペア約281m、Bペア約312m
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地(人工林以外)、人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)、人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は低騒音型・低振動型の建設機械を使用することにより影響低減を図るため、建設機械の稼働の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・Aペア及びBペアの営巣地、営巣中心域は直接改変されない。一方、高利用域は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、全ペアについて、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)、人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・Aペア及びBペアの営巣地、営巣中心域は直接改変されない。一方、高利用域は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、全ペアについて、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-10-29(21) 重要な鳥類の予測結果(サシバ)

項目	内容	
生態	全長オス約47cm、メス約51cm。国内では主として東北地方以南に夏鳥として渡来する。樹林と水辺や湿地、草地がある谷戸環境を有する里山が生息適地であるが、県内における水田との関連性は高くないと考えられる。営巣地は、生息地の中でも比較的樹齢の高い林で、林縁部に近い場所に架巢することが多い。採餌環境としては林縁または農耕地、山林内のギャップも利用される。秋の渡りで中部地方を通過するサシバは、静岡県で数千～1万羽記録されている ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	令和2年～令和4年の鳥類(猛禽類)調査では、合計126例が確認された。
	確認時期	鳥類(猛禽類)調査における確認時期：R2 春季、R2 夏季、R3 春季、R3 夏季、R3 秋季、R4 春季、R4 夏季
	確認位置 (営巣地の位置)	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：— 営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地なし
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の子な生息環境は、樹林地(人工林以外)、人工林、草地、果樹園、畑地、水田であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の子な生息環境である樹林地(人工林以外)、人工林、草地、果樹園、畑地、水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 本種の営巣地は調査地域内に存在しない。 以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の子な生息環境である樹林地(人工林以外)、人工林、草地、果樹園、畑地、水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 本種の営巣地は調査地域内に存在しない。 本種は長距離の渡りをするこゝで知られているが、現地調査において、本種の渡り途中の一時的な休息場利用は確認されていない。また、渡り時期の飛翔行動は高空であると考えられ、計画路線の構造は周辺に立地する人工構造物と比較して突出した高さではないことから、本種の移動空間は確保されるものと考えられる。 以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック<動物編>—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-10-29(22) 重要な鳥類の予測結果(クマタカ)

項目	内容	
生態	全長オス約70～74cm、メス約77～83cm。繁殖は北海道、本州、四国、九州の各地で確認され、県内では標高300m以上、高標高地に至る山地に広く分布し、周年生息する。森林性のタカであり、ノウサギ、ムササビやヤマドリのほか、小型の哺乳類や小鳥、ヘビ、カエルなど多様な生物を捕食する。採餌行動は山間の伐採地などで観察されることが多い。営巣地は樹齢の高い林で、営巣木は特に樹高のある大木を利用する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	令和2年～令和4年の鳥類(猛禽類)調査では、合計202例が確認された。
	確認時期	鳥類(猛禽類)調査における確認時期：R2 夏季、R2 秋季、R3 冬季、R3_春季、R3 夏季、R3 秋季、R4 冬季、R4 春季、R4 夏季
	確認位置 (営巣地の位置)	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1つがい1営巣地 営巣地から直接改変区域までの距離：Aペア約1.6km
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地(人工林以外)、人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)、人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・Aペアの営巣地、営巣中心域及び高利用域は直接改変されない。 ・工事中は低騒音型・低振動型の建設機械を使用することにより影響低減を図るため、建設機械の稼働等の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)、人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・Aペアの営巣地、営巣中心域及び高利用域は直接改変されない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-10-29(23) 重要な鳥類の予測結果(オオコノハズク)

項目	内容	
生態	全長約 24cm。留鳥。繁殖期は標高 500～1,000m ぐらいの山地の針葉樹林や広葉樹林に生息すると言われるが、冬期は平地の人の生活圏にも生息する。餌は小鳥類、昆虫類も食うが、特に冬期はネズミ類が多いようである。樹洞に営巣するため、大きな樹木のある比較的発達した常緑あるいは落葉広葉樹林を好む ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	令和 2 年～令和 4 年の鳥類（一般鳥類）調査では、果樹園の上空において 1 例が確認されたのみである。
	確認時期	鳥類（一般鳥類）調査における確認時期：R3 早春季
	確認位置 （営巣地の位置）	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：— 営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地なし
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、本種は調査地域を主な生息環境としていないと考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は調査地域内を主な生息環境としていない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は調査地域内を主な生息環境としていない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29(24) 重要な鳥類の予測結果(コノハズク)

項目	内容	
生態	全長約 20cm。餌はコガネムシ、ガ、バッタなどの昆虫類を主食にする。国内では夏鳥として北海道から九州まで繁殖する。県内では標高 1,000m 前後～2,000m 以下の山地に局所的に分布する。大径木の落葉広葉樹があり、餌とする昆虫類を多数生産する広い林で繁殖する。営巣は樹洞を利用する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	令和2年～令和4年の鳥類（一般鳥類）調査では、果樹園において1例の鳴き声が確認されたのみである。
	確認時期	鳥類（一般鳥類）調査における確認時期：R4 夏季
	確認位置 （営巣地の位置）	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：— 営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地なし
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、本種は調査地域を主な生息環境としていないと考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は調査地域内を主な生息環境としていない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は調査地域内を主な生息環境としていない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29(25) 重要な鳥類の予測結果(フクロウ)

項目	内容	
生態	全長 50cm。留鳥。県内では平地から山地まで広域に分布する。平地から山地の、採餌環境を有するかあるいは隣接している、樹洞が出来るような大径木のある森林、社寺林などに生息する。街灯のある公園などでも見られることがある。夜行性で、餌はネズミ類が主であるが鳥類も捕食する ¹⁾ 。繁殖の早いものは3月上旬に産卵を始め、4月下旬には巣立ちする ²⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	令和2年～令和4年の鳥類（一般鳥類）調査では、合計102例が確認された。
	確認時期	鳥類（一般鳥類）調査における確認時期：R2 秋季、R3 冬季、R3 早春季、R3 早春季、R3 春季、R3 夏季、R4 冬季、R4 春季、R4 夏季
	確認位置（営巣地の位置）	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：3 営巣地 営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地Aが約59m、営巣地Bが約334m、営巣地Cが約614m
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、緑の多い住宅地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は低騒音型・低振動型の建設機械を使用することにより影響低減を図るため、建設機械の稼働等の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・営巣地A、営巣地B、営巣地Cは直接改変されない。ただし、営巣地Aと計画路線の距離は約59mと近いことから、工事の実施に伴い繁殖活動に影響が生じる可能性がある。 ・以上より、営巣地Aについては、本種の生息環境への影響があると予測される。そのほかの営巣地については、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・営巣地A、営巣地B、営巣地Cの営巣地は直接改変されない。ただし、営巣地Aと計画路線の距離は約59mと近いことから、道路の存在に伴い繁殖活動に影響が生じる可能性がある。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、営巣地Aについては、本種の生息環境への影響があると予測される。そのほかの営巣地については、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-29(26) 重要な鳥類の予測結果(アオバズク)

項目	内容	
生態	全長約 29cm。国内では夏鳥として全国に分布する。県内では平野部から低山にかけての市街地周辺、里地、里山に分布する。社寺のクスノキなどの大木の樹洞を巣として利用する傾向が強い。繁殖には、毎年同じ樹洞を使う。繁殖後は、分散して里地・里山の広葉樹林に生息する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	令和2年～令和4年の鳥類（一般鳥類）調査では、合計37例が確認された。
	確認時期	鳥類（一般鳥類）調査における確認時期：R3 春季、R3 夏季、R4 春季、R4 夏季
	確認位置（営巣地の位置）	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2 営巣地 営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地Aが約 16m、営巣地Bが約 663m
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、緑の多い住宅地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 工事中は低騒音型・低振動型の建設機械を使用することにより影響低減を図るため、建設機械の稼働等の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 営巣地A、営巣地Bは直接改変されない。ただし、営巣地Aと計画路線の距離は約 16m と近いことから、工事の実施に伴い繁殖活動に影響が生じる可能性がある。 以上より、営巣地Aについては、本種の生息環境への影響があると予測される。営巣地Bについては、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 営巣地A、営巣地Bは直接改変されない。ただし、営巣地Aと計画路線の距離は約 16m と近いことから、道路の存在に伴う繁殖活動への影響が考えられる。 道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 以上より、営巣地Aについては、本種の生息環境への影響があると予測される。営巣地Bについては、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29(27) 重要な鳥類の予測結果(アリスイ)

項目	内容	
生態	全長約 18cm。本州中部以南で越冬する冬鳥。海浜、農耕地、河川敷、村落周辺の草地、ヨシ・オギ群落、疎林などに生息する。昆虫類やクモ類を餌とするが、特にアリを好み、朽ちた樹皮を剥がし、長い舌で巻き取るなどして食う ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において、1地点で1個体、果樹園において、1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2地点2個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、草地、果樹園、畑地、水田であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、草地、果樹園、畑地、水田は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画とすることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、草地、果樹園、畑地、水田は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29(28) 重要な鳥類の予測結果(ハヤブサ)

項目	内容	
生態	全長オス 38～44cm、メス 46～51cm。北海道、本州、四国、九州に周年生息し繁殖する。県内では主に冬鳥として全域で観察される。海岸や河川などの開放的な環境に生息し、高速で巧みな飛翔や急降下による狩りで鳥類を捕食する。県内でも繁殖が確認されたが、繁殖地では高い崖の岩棚や穴を使用して営巣する ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	令和2年～令和4年の鳥類(猛禽類)調査では、合計41例が確認された。
	確認時期	鳥類(猛禽類)調査における確認時期：R2 春季、R2 夏季、R2 秋季、R3 冬季、R3 春季、R3 夏季、R3 秋季、R4 冬季、R4 春季、R4 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：— 営巣地から直接改変区域までの距離：営巣地なし
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、草地、果樹園、畑地、水田及び緑の多い住宅地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である草地、果樹園、畑地、水田及び緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の営巣地は調査地域内に存在しない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である草地、果樹園、畑地、水田及び緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の営巣地は調査地域内に存在しない。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境への影響はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック<動物編>—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-10-29(29) 重要な鳥類の予測結果(サンショウクイ)

項目	内容	
生態	全長約 20cm。夏鳥として 4 月下旬から 5 月中旬にかけて渡来する。国内では本州、四国、九州に分布し、県内全域で減少したが、西部寄りにやや多く分布する。丘陵地や低山の落葉広葉樹林に生息する。標高 1,000m 以上の山地でも繁殖期に観察されているが、繁殖は確認されていないようである ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において、6 地点で 7 個体、人工林において、1 地点で 1 個体、果樹園において、5 地点で 5 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季、R6 春季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：12 地点 13 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29(30) 重要な鳥類の予測結果(サンコウチョウ)

項目	内容	
生態	全長オス約 45cm、メス約 18cm。夏鳥。平地から低山帯のスギ・ヒノキの植林、落葉広葉樹林、針広混交林に生息する。中でも沢が流れている環境を特に好む。餌は主にハエ類、アブ類、トンボ類など飛ぶ昆虫である ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において、15 地点で 16 個体、人工林において、1 地点で 1 個体、果樹園において、2 地点で 2 個体、水田において、1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：19 地点 20 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）及び人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林、は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉」（静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29(31) 重要な鳥類の予測結果(コシアカツバメ)

項目	内容	
生態	全長約 19cm。夏鳥。ツバメより遅い 4 月中～下旬頃に渡来し、10 月中・下旬頃に渡去する。市街地、村落、池、河川、河口付近に生息する。飛翔する小型昆虫類を飛びながら捕食する。餌はカやハエ類、カメムシ類、ユスリカ類などの小型昆虫類である。これらの昆虫類の多い地域に生息し、コンクリートやモルタルなどの建造物に、泥と糞に唾液を混ぜ合わせて徳利を縦に割って天井に張り付けた形の巣を造る ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において、1 地点で 3 個体、果樹園において、2 地点で 3 個体、畑地において、2 地点で 11 個体、水田において、1 地点で 1 個体、緑の多い住宅地・公園・墓地等において、1 地点で 6 個体、開放水域において、2 地点で 5 個体、草地（陸水域）において、1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：10 地点 30 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田、果樹園、草地、畑地、緑の多い住宅地等及び開放水域（河川）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田、果樹園、草地、畑地、緑の多い住宅地等及び開放水域（河川）のうち、開放水域（河川）は直接改変されない。水田、果樹園、草地、畑地及び緑の多い住宅地等は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田、果樹園、草地、畑地、緑の多い住宅地等及び開放水域（河川）のうち、開放水域（河川）は直接改変されない。水田、果樹園、草地、畑地及び緑の多い住宅地等は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29(32) 重要な鳥類の予測結果(オオムシクイ)

項目	内容	
生態	<p>日本では夏鳥。これまでメボソムシクイの1亜種であったが、2011年の分類の再検討により独立種となり、国内では北海道内のみで繁殖分布する渡り鳥である。</p> <p>夏期は、北海道知床半島、千島列島、サハリン、カムチャツカ半島で繁殖し、冬期はインドネシアやタイ等東南アジア諸国まで渡って越冬する。本州付近では、春の渡りに関しては、5月下旬～6月上旬頃に北上個体を目撃または囀りを聞くことが多い。秋の渡りは、渡り時期にばらつきが多いが、新潟県や福井県などの日本海側では、9月下旬～10月下旬の間に南下する個体が確認できる¹⁾。</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において、1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点1個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，鳥類」（環境省、令和8年3月）

表 11-10-29(33) 重要な鳥類の予測結果(ミソサザイ)

項目	内容	
生態	<p>全長 10.5cm。国内では、大隅諸島以北に周年生息し繁殖するが、冬期に暖地へ移動するものもいる。繁殖期におよそ 600m 以上の標高にある谷や沢などに生息し、主に溪流沿いの地上にコケなどを使って営巣する。越冬期も繁殖地の山塊で生息するものが多いとされる¹⁾。</p> <p>低山帯から亜高山帯のよく茂った薄暗い樹林にすみ、針葉樹林や針広混交林に多い。冬は低地にも現れ、スギ林のような暗い林の林床で見られる。繁殖期は早いほうで 4 月～7 月ごろ²⁾。</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	果樹園において 1 地点で飛翔する 1 個体が確認された。
	確認時期	R2 冬季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）及び人工林であると考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林、は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

2) 「原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉」（保育社、平成7年2月）

表 11-10-29(34) 重要な鳥類の予測結果(クロツグミ)

項目	内容	
生態	日本には夏鳥として渡来し、九州以北の各地に分布する。主に本州中部以北で繁殖し、低山帯の林から標高 1000m 以下の山地に生息するが、最近では平地林での繁殖も報告されている。広葉樹林、スギなどの造林針葉樹林に地上をはね歩きながら採餌する。ミミズやゴミムシなどの昆虫を食べる。植物ではヤマザクラ、ノブドウ、ヒサカキなどの植物を食べる。繁殖期は5～7月、年に1～2回繁殖する。木の枝の上に、コケ類や枯れ草、土などを材料に椀形の巣をつくる ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において1地点で10個体、緑の多い住宅地・公園・墓地等において1地点で1個体、開放水域（河川）沿いの樹林において1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：3地点 12個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）及び人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林、は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉」（保育社、平成7年2月）

表 11-10-29(35) 重要な鳥類の予測結果(コサメビタキ)

項目	内容	
生態	全長約 13cm。平地から標高 1600m くらいまでの低山の落葉広葉樹林に生息する。日本では、九州以北に夏鳥として渡来し繁殖する。とまり木から飛び立ち、羽虫を捕まえてまた元の枝にもどる ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	果樹園において、ミカン樹頂の 1 地点で渡りの途中と思われる 4 個体の採餌が確認されたのみである。
	確認時期	R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 4 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、本種は調査地域を主な生息環境としていないと考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は調査地域内を主な生息環境としていない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は調査地域内を主な生息環境としていない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-29 (36) 重要な鳥類の予測結果(ピンズイ)

項 目	内 容	
生態	<p>全長 15cm。四国以北で繁殖し、本州中部以南では標高 1,000m 以上で、東北以北では平地でも繁殖する。東北以北では主に夏鳥あるいは旅鳥で、本州中部以南では主に旅鳥あるいは冬鳥。繁殖地は、標高 1,000m 以上の高原にある牧場などで、周辺に疎林のある環境。越冬地の環境は、作物の生えていない農地。面積の広い社寺や公園で、裸地や草が疎らに生える環境を好む。上空を 1 羽から数羽で移動するが、「ズィーッ」と鳴きながら通過するので、声の識別ができれば確認は容易である。尾を上下に振り、歩きながら地面で採餌する。松の生えた環境を好み、太い松の横枝の上を歩くのが特徴である¹⁾。</p> <p>4 月下旬に繁殖地に渡来し、5～8 月までに年 2 回繁殖する。冬は本州中部以南に南下して暖地で越冬する²⁾。</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	果樹園において 1 地点で鳴き声による 1 個体が確認された。
	確認時期	R2 冬季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、果樹園、畑地、草地、水田、緑の多い住宅地・公園・墓地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である果樹園、畑地、草地、水田、緑の多い住宅地・公園・墓地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である果樹園、畑地、草地、水田、緑の多い住宅地・公園・墓地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

2) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(保育社、平成7年2月)

表 11-10-29(37) 重要な鳥類の予測結果(カシラダカ)

項目	内容	
生態	<p>体長 15cm。平地から山地の林縁、農耕地、草地などに生息し、種子などを食べる¹⁾。</p> <p>日本には10月から翌年の5月ごろまで冬鳥として全域に現れ、本州以南で越冬する。冬は低地や低山帯の農耕地、雑木林、疎林、湖畔や川辺のヨシ原や藪地で見られ、秋・春は亜高山帯の湿地周辺に現れる²⁾。食性は植物質が主で植物の種子を食べるほか、鞘翅目や鱗翅目などの昆虫も採餌する³⁾。</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	人工林において1地点1個体、水田において2地点11個体、畑地において1地点7個体、果樹園において3地点7個体が確認された。
	確認時期	R3 冬季、R7 冬季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：7地点26個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、人工林、水田、畑地、果樹園であると考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である人工林、水田、畑地、果樹園は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である人工林、水田、畑地、果樹園は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「東京都レッドデータブック2023—東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版—」(東京都環境局自然環境部、令和5年3月)

2) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(保育社、平成7年2月)

3) 「第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物、鳥類」(環境省、令和8年3月)

(c) 両生類

予測地域に生息すると考えられる重要な両生類の予測結果は、表 11-10-30(1)～(7)に示すとおりです。

表 11-10-30(1) 重要な両生類の予測結果(アカハライモリ)

項目	内容	
生態	オスの頭胴長 4～5cm、全長 8.5～10.5cm、メスの頭胴長 5.0～6.5cm、全長 10～13cm。静岡県内では伊豆半島南部を除くすべての地域に分布する。山際の水田やその周辺の水路やため池、山間部に見られる湿地、溪流脇の溜まりなどに多く生息する ¹⁾ 。産卵は 4 月下旬から 6 月上旬にかけて行われ、幼生は 9 月まで見られる ²⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 10 地点で成体 14 個体、人工林において 3 地点で成体 12 個体、果樹園において 6 地点で成体 46 個体、1 地点で幼生 1 個体、水田において 2 地点で成体 3 個体、その他の市街地・工場地帯（道路）において 2 地点で成体 2 個体確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 早春季、R3 春季、R3 夏季、R5 春季、R5 夏季、R5 秋季、R6 早春季、R6 春季、R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：2 地点 11 個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：22 地点 67 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園及び水田の水辺環境であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園及び水田の水辺環境は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園及び水田の水辺環境は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-30 (2) 重要な両生類の予測結果(アズマヒキガエル)

項目	内容	
生態	<p>体長 14cm。繁殖期に止水域に出現するが、水田環境はほとんど利用しない。非繁殖期は、ほぼ完全に陸生であるが猛暑季には溪流近くにも出現する。山地では森林域に、低地では公園の草地などに生息するが、変態直後の餌となる微小な土壌昆虫、ダニなどの生息することが重要である。海岸近くから高山まで広く分布。3～5 月に、溝、池、湿原などの止水に長い紐状卵塊を産む¹⁾。</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	<p>樹林地（人工林以外）において 1 地点で成体 1 個体、1 地点で幼体 1 個体、2 地点で卵塊 2 個、人工林において 1 地点で成体 1 個体、卵塊 2 個、3 地点で幼生 380 個体、果樹園において 1 地点で成体 1 個体、2 地点で卵塊 2 個、緑の多い住宅地・公園・墓地等において 1 地点で成体 1 個体、草地（陸水域）において、1 地点で成体 1 個が確認された。</p>
	確認時期	R2 秋季、R3 早春季、R3 春季、R3 夏季、R6 秋季
	確認位置	<p>直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：14 地点 392 個体</p>
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、水田及び緑の多い住宅地・公園・墓地等の水辺環境であると考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、水田及び緑の多い住宅地・公園・墓地等の水辺環境は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、水田及び緑の多い住宅地・公園・墓地等の水辺環境は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-30 (3) 重要な両生類の予測結果(ニホンアカガエル)

項目	内容	
生態	体長はオスが4～5cm、メスは5～7cm。平地や丘陵地の水田や湿地、池などを繁殖場所に使い、周辺の草地、森林地帯を生活場所として利用している。繁殖期は12月から3月中旬の冬季から早春にかけて行われる。湿地や水田などの水の残った止水に500～3,000個の卵を塊として産む ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地(人工林以外)において4地点で成体4個体、3地点で幼体4個体、人工林において1地点で成体1個体、水田において1地点で卵塊3個が確認された。
	確認時期	R3 早春季、R3 夏季、R5 夏季、R5 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：9地点12個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地(人工林以外)、人工林、草地及び水田の水辺環境であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)、人工林、草地及び水田の水辺環境は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)、人工林、草地及び水田の水辺環境は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-10-30(4) 重要な両生類の予測結果(ネバタゴガエル)

項目	内容	
生態	体長は4～5cm前後。主に山地の溪流に沿って生息する。変態して上陸した後は、溪流付近の林床で生活する。溪流の源流部や湧水地などの伏流水環境で産卵し、そこで幼生期を過ごす。変態した後は溪流付近の林床で生活する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において16地点で成体36個体、4地点で幼体9個体、人工林において16地点で成体46個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 早春季、R3 春季、R3 夏季、R5 秋季、R6 春季、R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：36地点91個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林の水辺環境であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林の水辺環境は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画とすることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林の水辺環境は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-30 (5) 重要な両生類の予測結果(トノサマガエル)

項目	内容	
生態	体長はオスが4.8～7.6cm、メスは6.4～9.3cm。水田や湿地にある池などに産卵する。大きな河川では高水敷にある湿地や水たまりでも見られる。クモや昆虫を食べ、冬眠は水田の畔や近くの畑などで行う。静岡県の繁殖期は4月下旬から5月中旬で田植えの時期によく見られる。2,000～4,000個の卵を扁平した球形の塊として産む ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地(人工林以外)において3地点で成体6個体、2地点で幼体2個体、1地点で卵塊1個、人工林において3地点で成体5個体、果樹園において12地点で成体14個体、1地点で幼体1個体、水田において1地点で亜成体1個体、12地点で成体22個体、2地点で幼生32個体、3地点で幼体3個体、開放水域(河川、溜池)において2地点で成体2個体、が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R5 春季、R5 夏季、R5 秋季、R6 春季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：2地点7個体 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：40地点82個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地(人工林以外)、人工林、果樹園、水田、畑地及び開放水域(河川、溜池)の水辺環境であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)、人工林、果樹園、水田、畑地及び開放水域(河川、溜池)の水辺環境のうち、開放水域(河川、溜池)は直接改変されない。樹林地(人工林以外)、人工林、果樹園、水田、畑地の水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)、人工林、果樹園、水田、畑地及び開放水域(河川、溜池)の水辺環境のうち、開放水域(河川、溜池)は直接改変されない。樹林地(人工林以外)、人工林、果樹園、水田、畑地の水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-10-30(6) 重要な両生類の予測結果(ツチガエル)

項目	内容	
生態	平地から低地にかけて分布する。市街地の池から山地の溪流付近、広い河川の川原まで広範囲に生息する。繁殖期は5～9月で、水田、池、沼、溝、用水路、湿原、湿地の水たまり、広い河川の河原にある水溜まりなどの浅い止水や緩い流れに、小さな卵塊を数回に分けて産む ¹⁾ 。餌としてアリを多く食べる他、クモ、双翅類の成虫・幼虫、ゴムムシなどの鞘翅類、鱗翅類幼虫などもよく食べる。幼体と成体は池や小川の底の泥の中など、水中で越冬することが多い ²⁾ 。12月の下旬ごろから越冬態勢に入り、池や川底の泥中にもぐる。3月末から4月初めに冬眠場所から出て、水田や池、沼のまわりで動きはじめる ²⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において4地点で成体161個体、1地点で幼生50個体、果樹園において13地点で成体49個体、3地点で幼生18個体、1地点で幼生（越冬幼生）が1個体、1地点で幼体1個体、水田において3地点で成体16個体、2地点で幼生3個体、緑の多い住宅地・公園・墓地等において1地点で成体1個体、草地において1地点で成体1個体、開放水域（河川、溜池）において1地点で成体10個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 早春季、R3 春季、R3 夏季、R6 春季、R6 夏季、R6 秋季、R7 冬季（早春季）
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：31地点 311個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、果樹園、水田、開放水域（河川、溜池）の水辺環境であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、果樹園、水田、開放水域（河川、溜池）の水辺環境のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。樹林地（人工林以外）、果樹園、水田の水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、果樹園、水田、開放水域（河川、溜池）の水辺環境のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。樹林地（人工林以外）、果樹園、水田の水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の幼体は池や小川の底の泥の中などで越冬し、春には水田などに移動すると考えられる。河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じない。これらのことから、道路供用後にも本種の越冬に伴う移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

2) 「日本動物大百科第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類」（株式会社平凡社、1996年12月）

表 11-10-30 (7) 重要な両生類の予測結果(モリアオガエル)

項目	内容	
生態	体長はオスが5～7cm、メスは6～9cm。低地から高地まで生息し、主に山地にみられる。繁殖場所は池、沼、水田などの止水で、周囲には産卵のなされる樹木、草木などがあるが、これらがいない場合は石垣などが利用される。繁殖期以外は森林内で樹上生活をする。繁殖期は4～7月で、池や水田近くの木の枝や地上に産卵する。卵塊の中にはクリーム色の卵が300～800個入っている ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において2地点で成体22個体、1地点で幼生8個体、1地点で卵塊100個、人工林において2地点で成体33個体、1地点で卵塊1個、開放水域（溜池）において1地点で成体1個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：8地点165個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、水田及び開放水域（溜池）の水辺環境であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、水田及び開放水域（溜池）の水辺環境のうち、開放水域（溜池）は直接改変されない。樹林地（人工林以外）、人工林、水田の水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、水田及び開放水域（溜池）の水辺環境のうち、開放水域（溜池）は直接改変されない。樹林地（人工林以外）、人工林、水田の水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

(d) 爬虫類

予測地域に生息すると考えられる重要な爬虫類の予測結果は、表 11-10-31(1)～(7)に示すとおりです。

表 11-10-31(1) 重要な爬虫類の予測結果(ニホンイシガメ)

項目	内容	
生態	<p>甲長 13～20cm¹⁾。本種は河川の上流から中流域、山間や山際の湖沼や低湿地を主な生息場所とするが、低地の湖沼や灌漑水田で見られることも多い³⁾。川底が礫質で、日光浴に適した土手や石がある環境を好む¹⁾。礫の隙間にいる水生昆虫やサワガニなどを食べる。産卵期は6～7月ごろで、1シーズンに2回産卵する個体が多い。1回に6～7個前後の卵を産む²⁾。</p> <p>冬季は水中の横穴や淵などに堆積した泥や落ち葉の下で越冬する。本種の移動距離は時には数百 m にもなり、低い山の尾根を越えることさえある。また、冬眠場所である同じ山の池や小流と水田のあいだを毎年往復していたという報告もある³⁾。</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において3地点で3個体、人工林において1地点で1個体、果樹園において1地点で1個体、畑地において1地点で1個体、その他の市街地・工場地帯（道路）において1地点で1個体、緑の多い住宅地・公園・墓地等において1地点で2個体、開放水域（河川、溜池）において4地点で17個体、草地（陸水域）において6地点で15個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：18地点 41個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川、溜池）、水田であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）、水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）、水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種は水中の横穴や淵などに堆積した泥や落ち葉の下で越冬し、冬眠場所である同じ山の池や小流と水田のあいだを毎年往復すると考えられる。河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じない。これらのことから、道路供用後にも本種の越冬に伴う移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

- 1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）
- 2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020—動物編—」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）
- 3) 「日本動物大百科第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類」（株式会社平凡社、1996年12月）

表 11-10-31(2) 重要な爬虫類の予測結果(クサガメ)

項目	内容	
生態	甲長 20～24cm。低地の河川や池沼などに生息し、流れが緩やかで濁りのある底質が泥の環境を好む。水田と周辺の水路にも生息し、特に公園の池や住宅地周辺の水辺では数多く確認されている ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	水田において1地点で1個体、開放水域において1地点で2個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2地点3個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川、溜池）、水田であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である草地（陸水域）、水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である草地（陸水域）、水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-31(3) 重要な爬虫類の予測結果(ニホンスッポン)

項目	内容	
生態	甲長 20～40cm。大きな河川の中流から下流域で観察される ¹⁾ 。完全な淡水性。中・下流域の底が砂泥質の河川、池、沼等に生息する。貝類、甲殻類、水生昆虫、魚類などを捕食する。6～8月に8～50個の卵を産卵する ²⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	畑地において、2地点で4個体、草地（陸水域）において、1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：3地点5個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の子な生息環境は、開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である開放水域（河川、溜池）は、直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である開放水域（河川、溜池）は、直接改変されない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック＜動物編＞－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-31(4) 重要な爬虫類の予測結果(ニホンヤモリ)

項目	内容	
生態	全長 10～14cm。主に民家の周辺に生息し、壁や木材の隙間に住む。夜行性で明かりに集まる虫を捕食するため、電灯や民家の窓に度々出現する。越冬や産卵に適した隙間を必要とし、木造の住宅や薪などの木材が置かれた環境を好む ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において、3地点で9個体、人工林において、1地点で3個体、果樹園において、9地点で、28個体、水田において、1地点で6個体、その他の市街地・工場地帯において、2地点で2個体、緑の多い住宅地・公園・墓地等において、3地点で8個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 早春季、R3 春季、R3 夏季、R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：19地点 56個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の子な生息環境は、果樹園、緑の多い住宅地等、その他の市街地であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である果樹園、緑の多い住宅地等、その他の市街地は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である果樹園、緑の多い住宅地等、その他の市街地は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-31(5) 重要な爬虫類の予測結果(ヒガシニホントカゲ)

項目	内容	
生態	頭胴長 5.5~7.0cm。海岸付近の低地から高山にまで分布しており、人家周辺にも生息している。春先には日光浴によって体温を上げるので、日光浴に適した開けた場所があり、さらに採餌のための草むらがある場所で、よく見られる。繁殖期は 4~5 月で、巣穴で産卵したメスは孵化まで卵の世話を ¹⁾ する。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地(人工林以外)において、13地点で18個体、人工林において、4地点で4個体、果樹園において、26地点で32個体、畑地において、1地点で2個体、水田において、1地点で1個体、緑の多い住宅地・公園・墓地等において、1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 早春季、R3 春季、R3 夏季、R5 秋季、R6 春季、R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：46地点 58個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の子な生息環境は、畑地、水田、緑の多い住宅地等、樹林地(人工林以外)、人工林、草地及び果樹園であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である畑地、水田、緑の多い住宅地等、樹林地(人工林以外)、人工林、草地及び果樹園は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である畑地、水田、緑の多い住宅地等、樹林地(人工林以外)、人工林、草地及び果樹園は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック<動物編>—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-10-31(6) 重要な爬虫類の予測結果(シロマダラ)

項目	内容	
生態	全長 30～70cm。夜行性で山地から平地にまで生息している。主な餌であるヒガシニホントカゲ、オカダトカゲ、ニホンカナヘビが生息する場所が生息環境であろう。昼間は石や倒木の下などに隠れる。6～8月に1～9個の卵を産む ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において、1地点で1個体、その他の市街地・工場地帯において、1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：1地点1個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点1個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、畑地、水田、緑の多い住宅地等、樹林地（人工林以外）、人工林、草地（陸水域）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である畑地、水田、緑の多い住宅地等、樹林地（人工林以外）、人工林、草地（陸水域）及び果樹園は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である畑地、水田、緑の多い住宅地等、樹林地（人工林以外）、人工林、草地（陸水域）及び果樹園は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-31(7) 重要な爬虫類の予測結果(ヤマカガシ)

項目	内容	
生態	全長 60～120cm。国内では本州、四国、九州、とその周辺の一部の島嶼に分布。餌動物としてカエル類や魚類を捕食することから、水辺に近い湿潤な環境を好む。産卵期は 6～8 月で 2～40 個ほどの卵を産卵する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において、2 地点で 2 個体、果樹園において、4 地点で 4 個体、水田において、5 地点で 5 個体、草地（陸水域）において、4 地点で 4 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R6 春季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：15 地点 15 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、水田、果樹園、草地（陸水域）の水辺環境であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境のうち、草地（陸水域）の水辺環境は直接改変されない。樹林地（人工林以外）、水田、果樹園の水辺環境は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境のうち、草地（陸水域）の水辺環境は直接改変されない。また、樹林地（人工林以外）、水田、果樹園の水辺環境は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

(e) 魚類

予測地域に生息すると考えられる重要な魚類の予測結果は、表 11-10-32(1)～(14)に示すとおりです。

表 11-10-32(1) 重要な魚類の予測結果(ニホンウナギ)

項目	内容	
生態	全長約 60cm のウナギ科魚類。円筒状で細長い。背鰭、尾鰭、臀鰭が連なっているが腹鰭を欠く。西マリアナ海嶺南部海域で夏の新月に産卵する。レプトケファルス（葉形仔魚）の状態では海流によって運ばれ、シラスウナギに変態して接岸する。クロコを経て黄ウナギとなり河川中流や湖沼から内湾までさまざまな場所に生息する。4～15歳で銀ウナギに変態して海に下り、海域で産卵回遊を行う ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	河川において 30 地点で 176 個体、水田水路において 3 地点で 3 個体、溜池において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R4 春季、R4 夏季、R6 秋季、R7 春季、R7 夏季
	確認位置	直接改変区域：1 地点 1 個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：33 地点 179 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）は、直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）は、直接改変されない。 ・本種の主な生息環境のうち、河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-32(2) 重要な魚類の予測結果(カワムツ)

項目	内容	
生態	全長約 20cm。河川上流域下部から中流域下部までの淵や平瀬、下流域や水田排水路などの緩流域や池沼沿岸に生息する。川岸にツルヨシやヤナギ類が繁茂する場所で多くみられる。繁殖期は 5～8 月で、主に淵や平瀬の岸辺で産卵する。仔稚魚は淵の川岸に群れる ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	河川において 74 点で 1043 個体、水田水路において 3 地点で 15 個体、沢において 1 地点で 40 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R3 秋季、R4 春季、R4 秋季、R6 春季、R6 夏季、R6 秋季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：1 地点 1 個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：77 地点 1097 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田水路及び開放水域（河川）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域（河川）のうち、開放水域（河川）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域（河川）のうち、開放水域（河川）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 本種の主な生息環境のうち、河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-32(3) 重要な魚類の予測結果(タモロコ)

項目	内容	
生態	全長約 10cm。日本固有種で、太平洋側では静岡県以西、日本海側では新潟県以西の本州及び四国が自然分布域とされる。河川中流域から下流域や池沼まで広く生息し、川や農業水路などの緩流で多くみられる。動物質に偏った雑食で、繁殖は春に行われる。卵は水中にある植物の茎、根や葉に産み付ける ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	河川において 10 地点で 67 個体、水田水路において 2 地点で 8 個体、溜池において 1 地点で 2 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R4 夏季、R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：13 地点 77 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田水路及び開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の主な生息環境のうち、河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-32(4) 重要な魚類の予測結果(ドジョウ類¹⁾)

項目	内容	
生態	北海道から琉球列島まで広く分布する。県内では高山地域を除くほぼ全域で広く確認されている。底泥に付着する微小藻類や底に溜まった有機物の半分解物などを摂食する。繁殖期は春から初夏にかけてで、水中の植物などに卵を付着させ、あるいは泥底の上にはばらまく。水田では、水入れ直後に進入し、産卵する様子がみられる。主に緩流や止水の泥底に生息する。水田や周囲の用水路に多く、それに続く河川や池沼でもみられる ²⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	河川において 10 地点で 26 個体、水田水路において 2 地点で 3 個体、溜池において 2 地点で 2 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R3 秋季、R4 春季、R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：14 地点 31 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田水路及び開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の主な生息環境のうち、河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「ドジョウ類」は、ドジョウ（選定基準⑤：EN、⑥：DD、⑦：VU）として扱った。

2) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック＜動物編＞－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-32(5) 重要な魚類の予測結果(ニシシマドジョウ)

項目	内容	
生態	<p>体長約 8～10cm のドジョウ科魚類。口ひげは 3 対。体側中央には円～楕円形の褐色斑紋が約 10 個並ぶ。尾鰭基底には黒色斑が 2 つあり、上側は大きく明瞭な半円形で、下側は不明瞭。尾鰭には斑紋上の横帯が 3～4 列みられる。オスの胸鰭の骨質盤はくちばし状になる。繁殖期は 4～6 月。野外での寿命は 2 年以上と考えられるが、生活史の詳細は不明¹⁾。</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	河川において 20 地点で 44 個体、水田水路において 3 地点で 10 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R4 春季、R4 夏季、R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：23 地点 54 個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田水路及び開放水域（河川）であると考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域（河川）のうち、開放水域（河川）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域（河川）のうち、開放水域（河川）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 本種の主な生息環境のうち、河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-32(6) 重要な魚類の予測結果(ホトケドジョウ)

項目	内容	
生態	全長 8cm のドジョウ科魚類。体は円筒状でやや細長く、背鰭はかなり後方につき、4 対のひげがある。体側には暗色の小斑点が散在する。中層や下層を遊泳することが多く、砂や泥にはあまり潜らない。繁殖期は春から初夏で、沈水植物や水に浸かった湿生植物の葉や茎に卵を産み付ける。湧水や山地からの浸出水がある細流及び水田回りの用水路など緩やかな流れに生息する。砂礫底や砂泥底で沈水植物や岸際に湿生植物が繁茂するところを好む。冬季にはやや深場に移動する。本種の生息密度の高いところでは、ほかの魚種の生息は少ない ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	水田において 5 地点で 6 個体、沢において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 冬季、R4 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：6 地点 7 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の子な生息環境は、水田水路であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の子な生息環境のうち、水田水路内には横断工作物は設置されないことから、水路内の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-32(7) 重要な魚類の予測結果(トウカイナガレホトケドジョウ)

項目	内容	
生態	全長約7cmのドジョウ科魚類。体は円筒状でやや細長い。4対のひげがある。ホトケドジョウに比べ、眼は上方につき、背鰭は後方に位置する。体色は淡く、体側の暗色の小斑点も淡く少ない。背鰭や尾鰭には明瞭な暗色斑紋がない。春から初夏に、淵などの岩の隙間に卵をばらまくように産卵する。標高があまり高くない山地の源流近くの浅い淵などのほか、水の涸れた沢の伏流水中にも生息する。生息河川ではその源流部の細流に限られ、それぞれの生息地は孤立している。他の魚は同所的にはほとんど住まない。川底の礫間や川岸の岩の隙間に潜み、幼魚は落葉、落枝がたまった淵尻の岸寄りに多い ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	沢において110地点で1224個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、早春季、R4 夏季、秋季、春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：110地点 1224個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、沢であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である沢は直接改変されない。 ・一方で、掘削工事、トンネル工事に伴う地下水の変化により、本種の主な生息環境である沢の流量が低下した場合は、生息環境の一部に質的变化が生じる可能性がある。 ・なお、工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響があると予測する。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である沢は直接改変されない。 ・一方で、道路（地下式）の存在に伴う地下水の変化により、本種の主な生息環境である沢の流量が低下した場合は、生息環境の一部に質的变化が生じる可能性がある。 ・なお、沢には横断工作物等は設置されないことから、沢の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響があると予測する。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-32(8) 重要な魚類の予測結果(ミナミメダカ)

項目	内容	
生態	全長約 4cm のメダカ科魚類。背中線に沿って黒条がある。背鰭は後方につく。オスでは背鰭の後端には大きい切れ込みがあり、霽鰭は幅広い。繁殖期は春から秋にわたる。受精卵はしばらくメスの肛門付近に塊状についているが、やがて水草などに産み付けられる。平野部の水田や周辺の農業水路など、河川下流、池沼や湿地などの水性植物群落周りに広く生息する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	河川において 11 地点で 37 個体、水田水路において 14 地点 401 個体、溜池において 2 地点で 80 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R4 冬季、R4 春季、R4 夏季、R4 秋季、R6 秋季、R7 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：27 地点 518 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田水路及び開放水域（河川）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域（河川）のうち、開放水域（河川）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域（河川）のうち、開放水域（河川）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の主な生息環境のうち、河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-32(9) 重要な魚類の予測結果(カマキリ)

項目	内容	
生態	全長約 30cm。河口付近から中流域にかけて生息し、成魚は夏期には中流域に多い。川底に潜み底生動物や魚類を捕食して生活し、生長すると魚類をほぼ専食するようになる。降河回遊魚で、晩秋から冬期に川を下り、河口や河口付近の海域沿岸の巨礫の下面などに産卵し、オスが保護する。初春に稚魚またはごく若い未成魚となって川に入る ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	河川において 20 地点で 99 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R6 秋季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：20 地点 99 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川）は直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川）は直接改変されない。 ・本種の主な生息環境のうち、河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-32(10) 重要な魚類の予測結果(カワアナゴ)

項目	内容	
生態	全長約 25cm のカワアナゴ科魚類。繁殖期は 7～8 月と考えられており、野外では河口域付近にある池底の竹筒の内側面や河川下流域の石、飼育下では水槽の底や壁面、素焼き土管の内側面に球形卵を産卵した事例がある。また、孵化後満 1 年のオス個体(体長 14cm)が成熟した事例がある。河川汽水域から中流域に生息し、とくに淡水域でよくみられる。ヨシ類などの抽水植物や岸際植生が生育する緩流部、岩、倒木の下や河床に置かれた竹筒内などでみられる。 ¹⁾	
現地調査における 確認状況	確認状況	河川において 18 地点で 109 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R3 秋季、R6 秋季、R7 春季、R7 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：18 地点 109 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域(河川)であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域(河川)は直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域(河川)は直接改変されない。 ・本種の主な生息環境のうち、河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-10-32(11) 重要な魚類の予測結果(ボウズハゼ)

項目	内容	
生態	<p>体長約 15cm。一般的には流程の短い河川中・上流域に生息する。石の表面の付着藻類を独特の形状の口器を使って削り取るようにして食べる。産卵期は夏で、石の裏に卵を産みつけ、孵化するまで雄が保護をする。卵は他のハゼ類に比べて非常に小さく 0.4mm 程度で、産み付けられる一卵塊の数は多いもので 20 万粒を超える。孵化後の仔魚はただちに海に流下し、海域で全長 25～30mm ほどに成長した後、翌年の春に河川へと遡上する¹⁾。</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	河川において 21 地点で 40 個体、水田水路において 2 地点で 3 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R3 秋季、R4 夏季、R4 秋季、R7 春季
	確認位置	直接改変区域：1 地点 2 個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：22 地点 41 個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田水路及び開放水域（河川）であると考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域（河川）のうち、開放水域（河川）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域（河川）のうち、開放水域（河川）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の主な生息環境のうち、河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-32 (12) 重要な魚類の予測結果(ヒナハゼ)

項目	内容	
生態	<p>全長約3cmの小型のハゼ科魚類。体は側扁して体高が高い。体側には黒色斑が並び、鱗の外縁が褐色に縁どられる。成熟したオスは頭部が大きく発達して下顎後端が眼の後縁を越えるほか、第1背鰭が伸長する。繁殖期は、沖縄島では4～12月、四国では7～9月で、県内の状況については不明である。汽水域潮間帯から淡水域のカキ殻の内側や石の底面に長楕円形の小型卵を産卵する。オスは孵化後約3カ月で2次性徴を示し体長19.8mm以上、メスは体長18mmで成熟する。河口汽水域から感潮域最上流に生息し、泥・砂泥底でカキ礁がある場所、淵などの泥底の緩流部、ツルヨシなどの岸際植生付近で見られる¹⁾。</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	河川において2地点で3個体が確認された。
	確認時期	R6 秋季、R7 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2地点3個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川）であると考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川）は直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川）は直接改変されない。 ・本種の主な生息環境のうち、河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-32(13) 重要な魚類の予測結果(カワヨシノボリ)

項目	内容	
生態	全長約 6 cm。主に河川上中流域に生息するが、西部の浜名湖流入河川では下流域上部 (Bb-Bc 域) にも生息する。淵の周辺から平瀬にかけての緩流部で多くみられる。繁殖期は 5～8 月上旬で、平瀬のはまり石の下面に他の両側回遊型ヨシノボリ属よりも大型の卵を産卵する。孵化直後から底生生活を開始して一生を河川で過ごす ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	河川において 70 地点で 353 個体、水田水路において 6 地点で 18 個体、溜池において 3 地点で 33 個体、沢において 7 地点で 16 個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 早春季、R3 春季、R3 夏季、R3 秋季、R4 春季、R4 夏季、R4 秋季、R6 春季、R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：4 地点 19 個体 事業実施区域周辺 (直接改変区域外)：82 地点 401 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田水路及び開放水域 (河川、溜池) であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域 (河川、溜池) のうち、開放水域 (河川、溜池) は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田水路及び開放水域 (河川、溜池) のうち、開放水域 (河川、溜池) は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・本種の主な生息環境のうち、河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-10-32(14) 重要な魚類の予測結果(ビリンゴ)

項目	内容	
生態	全長約7 cm。河口汽水域や汽水湖でみられ、岸際の流れが緩い泥底や砂泥底の場所を好む。繁殖期は福岡県では1月下旬から4月下旬。繁殖場所は河口汽水域の砂泥底干潟で、アナジャコなどの生息孔のほか、ゴカイ類の巣穴を拡張して利用する。稚魚は初春から初夏にかけて浅海域に出現し、河口や内湾の汽水域に移動する。泥底や砂泥底の中層を群がりて浮遊する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	河口汽水域周辺の水田水路において1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R4 夏季
	確認位置	直接改変区域：1地点1個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：—
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川）は直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川）は直接改変されない。 ・本種の主な生息環境のうち、河川は渡河部が橋梁であり、河川内に橋脚や横断工作物は設置されないことから、河川内の連続性の分断は生じず、道路供用後にも本種の移動経路は確保される。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

(f) 昆虫類

予測地域に生息すると考えられる重要な昆虫類*の予測結果は、表 11-10-33(1)～(27)に示すとおりです。

※ 底生動物の現地調査で確認された昆虫類を含みます。

表 11-10-33(1) 重要な昆虫類の予測結果(オオゴキブリ)

項目	内容	
生態	体長は 37～41mm。主として海岸線に近い照葉樹林に生息しているが、環境適応性の幅も広く、落葉広葉樹林や針葉樹林にも生息している。生態については朽木内で坑道を掘って家族生活をしている以外ほとんど何も判っていない ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 19 地点で 64 個体、人工林において 1 地点で 1 個体、果樹園において 2 地点で 4 個体、草地（陸水域）において 1 地点で 2 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季、R5 秋季、R6 春季、R6 夏季、
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：23 地点 71 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林及び果樹園であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-33(2) 重要な昆虫類の予測結果(オオアメンボ)

項目	内容	
生態	体長は19～27mm。丘陵地から山間部にかけて、周辺を樹林に囲まれた池沼などに生息する。砂防堰堤によってせき止められた湛水域でもよく見られる。樹木の葉などによって日陰となった水面を好む。丘陵地から山間部にかけて広く分布しており、水深の深い止水域に生息している場合が多い。河川上流域の緩流部でも見つかる ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	溜池において3地点で23個体、河川において2地点2個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季、R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：5地点25個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-33(3) 重要な昆虫類の予測結果(エサキアメンボ)

項目	内容	
生態	体長は7.0～11.0mm。ヨシ、ガマなどの抽水植物の豊富な池沼に生息する。抽水植物間の閉鎖水面で生活し、開放水面に出ることはほとんどない。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では各地で生息が確認され、個体数の多い生息地も複数見られる ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	溜池において1地点で3個体が確認された。
	確認時期	R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：1地点3個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：—
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（溜池）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（溜池）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-33(4) 重要な昆虫類の予測結果(ミゾナシミズムシ)

項目	内容	
生態	体長 5.0～5.9 mm。静岡県内では中部から西部にかけて点々と生息地が確認されている。成虫は一年中見られる。ヨシやガマなどの抽水植物が繁茂するやや深い池沼など、安定した止水域に生息する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	周辺に溜池や抽水植物が生育する河川が広がる草地に設置したライトトラップにおいて、1地点で10個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点10個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（溜池）及び草地（陸水域）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（溜池）及び草地（陸水域）は直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（溜池）及び草地（陸水域）は直接改変されない。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-33(5) 重要な昆虫類の予測結果(コオイムシ)

項目	内容	
生態	体長 17～20mm。池沼や湿地、水田脇の水溜まりなどに生息するが、近年水環境の喪失・悪化などにより全国的に減少している。成虫・幼虫とも水中で他の小昆虫や淡水産貝類などの水生生物を捕えて体液を吸汁する。メスはオスの背面に卵を産み付け、オスは卵が孵化するまで保護することで有名 ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	開放水域（人工林以外）において、2地点で4個体、果樹園において、1地点で4個体、水田において、6地点で6個体、その他の市街地・工場地帯において、5地点で11個体、草地（陸水域）において、1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季、R4 春季、R4 夏季、R4 秋季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：5地点 11個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：10地点 15個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田及び開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化は生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-33 (7) 重要な昆虫類の予測結果(ヒメタイコウチ)

項目	内容	
生態	<p>体長 18～22mm。暗灰褐色で光沢を欠く。おおむね長卵形で、背面はほぼ平坦、前肢は腿節が肥大し、脛節は少し湾曲、跗節は 1 節で鉤状を呈し、全体として捕獲脚を成す。中・後肢は通常の歩行脚で、中肢はやや短い。尾部の呼吸管はタイコウチと比較してはるかに短い。湿地の浅い水域のコケや落葉の間、植物の根際などに見られ、肉食性で、小昆虫や小節足動物を捕えて体液を吸汁する。湧水のある混地に生息する¹⁾。</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	梅田北湿地において 5 地点で 9 個体、梅田北湿地周辺の谷戸の放棄水田や浸み出しのような小規模な湿地環境において 3 地点で 12 個体、梅田北湿地周辺の水田において 2 地点で 2 個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季、R4 夏季、R5 春季、R5 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：10 地点 23 個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、梅田北湿地及びその周辺の小規模な湿地環境であると考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である梅田北湿地及びその周辺の小規模な湿地環境は、直接改変されない。 ・本種の生息環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生息環境の質的な変化は生じない。 ・また、工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的な変化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である梅田北湿地及びその周辺の小規模な湿地環境は、直接改変されない。 ・本種の生息環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、道路（地下式）の存在に伴う生息環境の質的な変化は生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-33(8) 重要な昆虫類の予測結果(ホソバセセリ)

項目	内容	
生態	<p>♂♀の色彩斑紋はほとんど同じである。通常年 1 回、7 月中～下旬に発生が多い。平地から丘陵部の森林に接した草地、疎林、林縁部や路傍に見られる。食草はススキ類であり、袋状の巣を垂下させその中で蛹化する。飛翔は、他のセセリチョウ類ほど速くなく、すぐに葉上に止まる¹⁾。</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	人工林脇の草地において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、人工林及び草地であると考えられる。</p>	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である人工林及び草地は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である人工林及び草地は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-10-33(9) 重要な昆虫類の予測結果(コムラサキ)

項目	内容	
生態	開帳およそ60mm。標高およそ100m未満～1500mにかけて、河川の堤防、河川敷などに生育するコゴメヤナギなどのヤナギ林が主な生息地となる。日本では中央に橙色帯がある通常の型は全国的に分布している ¹⁾ 。県内では通常の型は伊豆半島から北遠地方まで分布しているが、“クロコムラサキ”は県内の各河川にはおおむね見られるが、東部では稀である。	
現地調査における確認状況	確認状況	河川沿いの果樹園において1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点1個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川）の河畔林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川）の河畔林は直接改変されない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川）の河畔林は直接改変されない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-33(10) 重要な昆虫類の予測結果(ヒメジャノメ)

項目	内容	
生態	開張およそ 40～45 mm。水田の周りの草地や堤防、森林の周辺や明るい林内などに生息し、時に住宅の庭でも見ることがある。幼虫の食餌植物は各種のイネ科植物。幼虫で越冬。成虫は5月中旬から現れ10月まで年3～4回発生する。成虫は花で吸蜜することはほとんどなく、果汁や樹液などを吸汁する ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において2地点で2個体、人工林において1地点で1個体、果樹園において1地点で1個体、水田において2地点で4個体、河川沿いの草地において2地点で2個体が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R6 春季、R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：8地点10個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、水田及び草地であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、水田及び草地は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、水田及び草地は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-33(11) 重要な昆虫類の予測結果(サトキマダラヒカゲ)

項目	内容	
生態	開張およそ 60～65 mm。主として標高の低い平地や里山のメダケやモウソウチクなどの竹林、ネザサの群落に生息し、時に標高の高いスズタケなどの群落でも採集されることがある。成虫は樹液を吸汁するのでコナラ、クヌギ、ヤナギなどの林が重要となる。幼虫の食餌植物はネザサやモウソウチクなど。蛹で越冬。成虫は5～6月と7月下旬～8月に2回発生する。クヌギなどの樹液や動物の糞などに集まり吸汁する ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において3地点で5個体、人工林において1地点で1個体、果樹園において3地点で4個体、水田において1地点で1個体、開放水域（河川）の河畔林において1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：2地点 2個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：7地点 10個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の子な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、水田及び開放水域（河川）の河畔林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、水田及び開放水域（河川）の河畔林のうち、開放水域（河川）の河畔林は直接改変されない。樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園及び水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、水田及び開放水域（河川）の河畔林のうち、開放水域（河川）の河畔林は直接改変されない。樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園及び水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-33(12) 重要な昆虫類の予測結果(エチゴハガタヨトウ本土亜種)

項目	内容	
生態	開張 38mm～41mm。成虫は年 2 回の発生で、5～6 月、8～10 月に出現する。卵で越冬する。幼虫は黄緑色の体色で、ツゲを摂食する。老熟すると、土中へ潜って蛹化する。第 1 化幼虫は同じくツゲを食するイセキリガ幼虫とほぼ同時期に見られるが、黄柳野では本種幼虫の方が多く見られる ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	人工林において、1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-33(13) 重要な昆虫類の予測結果(*Jujiroa*属(ジャアナヒラタゴミムシ、もしくはホラズミヒラタゴミムシの可能性が想定される))

項目	内容	
生態	<p><ジャアナヒラタゴミムシ>体長 12.5mm 程度。体のキチン化が弱く褐色で、複眼は退化縮小している。体型は細く、両側はほぼ平行、脚はやや短く頑強。オスの附節下面の吸着毛を欠く。静岡県西部および愛知県東部地域の固有種。地下浅層や洞窟を生息場所とする地中性の種。まれに森林の林床で確認されることもある。詳細は不明であるが、肉食性で他の小動物を捕食すると考えられる。地下性の種であるため、分布の詳細を把握することは困難で、分布域の衰亡については検証できていない。</p> <p>和名の由来でもあるタイプ産地の蛇穴(じゃあな)では近年生息の確認がなされていない。隣接する洞窟においても生息の可能性が高いが調査はなされていない¹⁾。</p> <p><ホラズミヒラタゴミムシ>体長 11.5~12.5mm。洞窟あるいは、地中性。洞窟内部の石下などから発見される他、洞窟周辺の林床、地下浅層からも発見される。主要な生息地は地下浅層であると推定される²⁾。</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地(人工林以外)において1地点で1個体、人工林において1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2地点2個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地(人工林以外)及び人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「環境省レッドデータブック2014 5昆虫類」(環境省、平成27年2月)

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-10-33(14) 重要な昆虫類の予測結果(オオトックリゴミムシ)

項目	内容	
生態	体長 12~13.2mm。ゲンゴロウ類などの水生甲虫類と同じく強い好水性を持つ種である。低地から丘陵地にかけての溜池などの水際に生息している。強い好水性があり、時に水中に潜ることもある。成虫態で水辺周辺の土中で越冬する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	水田において1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点1個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田及び開放水域（溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（溜池）のうち、開放水域（溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（溜池）のうち、開放水域（溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的変化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-33(15) 重要な昆虫類の予測結果(セトナガゴミムシ)

項目	内容	
生態	体長 14.7～15.1 mm。生態的に特異で、被検標本のすべてが丘陵地にある溜池のほとりに堆積した枯葉の下から得られている ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において3地点で14個体が確認された。いずれの地点も涸れ沢の地中内であり、周辺は広葉樹や針広混交林であった。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：3地点14個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) KASAHARA, S. 1993. Two New Pterostichine Carabid Beetles Found on Low Mountains in Central Honshu, Japan. Elytra, Tokyo, 21(2) : 337-345.

表 11-10-33(16) 重要な昆虫類の予測結果(クロゲンゴロウ)

項目	内容	
生態	体長 20～25 mm。水生植物の豊富な池沼、休耕田、水田わきの水たまりなどに生息する。声中・幼虫ともに肉食性、8～9 月頃に新成虫が出現し、そのまま成虫越冬、幼虫は 5～8 月に見られる ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	溜池において 1 地点で 2 個体が確認された。
	確認時期	R4 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 2 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田及び開放水域（溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（溜池）のうち、開放水域（溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（溜池）のうち、開放水域（溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-33(18) 重要な昆虫類の予測結果(コガシラミズムシ)

項目	内容	
生態	体長 3.1～3.6mm。水生植物の豊富な池沼に生息する。成虫・幼虫ともにアオミドロなどの藻類を食べ、成虫は動物質のものも食べる。成虫は夜間、灯火に飛来することがある ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	河川において1地点で2個体、溜池において3地点で15個体が確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 夏季、R4 秋季、R7 早春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：4地点17個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（溜池）は直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（溜池）は直接改変されない。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-33(19) 重要な昆虫類の予測結果(マルヒラタガムシ)

項目	内容	
生態	体長 5 mm 内外。水生植物の豊富な止水域に生息する。県内の生息地はハス田放棄地や放棄養鰻池などで、ヨシの茂ったあまり深くない止水域やヨシはまばらで水深の深い止水域などである。成虫は 5～12 月に見られ、水草を食べ、幼虫は肉食性であるという ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	溜池において、1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R4 春季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（溜池）は直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（溜池）は直接改変されない。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック＜動物編＞－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-33(20) 重要な昆虫類の予測結果(コガムシ)

項目	内容	
生態	体長 15～18mm。水田や河川敷、海岸後背湿地の水溜まりなど、不安定な浅い止水域で繁殖し、ため池など安定した水域では繁殖しないとされる。成虫は草食性で水草を食べるが、繁殖期には動物質も食べる。幼虫は肉食性でヒメモノアラガイなどをよく食べる。メス成虫は水面近くに水草を絡めた卵嚢を作りその中に産卵する。成虫は夜間、よく灯火に飛来する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	水田において4地点で4個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季、R4 夏季、R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：4地点4個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的変化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-33(21) 重要な昆虫類の予測結果(クロカナブン)

項目	内容	
生態	体長 25.6～32.6mm。丘陵地から山地にかけて生息し、あまり高標高地には生息しない。成虫の出現は、7～9月初め、カナブンやアオカナブンより出現がやや遅い。日中活発に活動し、アベマキ、コナラなどの樹液の他、花や熟した果実にも集まる。幼虫は、朽ちた倒木の中から発見される ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	周辺に樹林地（人工林以外）が広がる道路において、1地点で1個体の死骸が確認された。
	確認時期	R2 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点1個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-33(22) 重要な昆虫類の予測結果(ヘイケボタル)

項目	内容	
生態	体長 7～10mm。幼虫は水田や流れの緩やかな小川・用水路などに生息し、場所によってはゲンジボタルと混生している。成虫は 6～9 月頃まで見られ、7～8 月頃に多く、夜間、ゲンジボタルより弱い光を放ちながら飛翔する。幼虫は主に止水域に生息し、モノアラガイ類などの淡水産貝類を餌としている ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	河川において 3 地点で 6 個体、沢において 5 地点で 22 個体、池において 4 地点で 10 個体、水田水路において 18 地点で 71 個体、樹林（人工林以外）において 2 地点で 2 個体、草地において 1 地点で 1 個体の成虫が確認された。
	確認時期	R3 夏季、R4 初夏、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：1 地点 2 個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：32 地点 110 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田水路及び開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である、水田水路及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である、水田水路及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田水路は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・道路の供用時には、道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しが少ない機材を採用する計画とするため、道路照明の影響による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-33(23) 重要な昆虫類の予測結果(オオセイボウ)

項目	内容	
生態	本州、四国、九州に分布する日本固有亜種 ¹⁾ 。幼虫はスズバチやトックリバチに寄生、寄主の幼虫を食べて育つという。本種の存続はスズバチやトックリバチに大きく依存している ²⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	放棄水田の草地において、1 地点で吸蜜する 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、草地及び緑の多い住宅地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、草地及び緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、草地及び緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「環境省レッドデータブック2014 5昆虫類」（環境省、平成27年2月）

2) 「レッドデータブックおおいた2022～大分県の絶滅のおそれのある野生生物～」（大分県ホームページ、2022年）

表 11-10-33(24) 重要な昆虫類の予測結果(トゲアリ)

項目	内容	
生態	胸部と腹柄節に長く湾曲した棘を持ち、胸部は赤い。似た種はいない。日本には他に2種の同属種がいるが、いずれも黒色で、棘の発達が弱い。広葉樹林を好む。山地の森林にも生息するが、低山地の里山にとくに多い。冬の寒い時期を除き、巣外で活動する様子が見られる。社会寄生種で、脱翅メスがクロオオアリやムネアカオオアリの巣に侵入し、寄主の女王を殺し、自分が女王に成り代わり、自分の子供を寄主のアリに育てさせる。小型の昆虫を狩ったり、アブラムシなどの甘露をおもな餌とする ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において、1地点で10個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点10個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「環境省レッドデータブック2014 5昆虫類」（環境省、平成27年2月）

表 11-10-33(25) 重要な昆虫類の予測結果(ヤマトアシナガバチ)

項目	内容	
生態	体長 16～22mm ¹⁾ 。20 頭ほどの小さな集団を作る。林縁などに多く見られ県内での生息数が多い ²⁾ 。国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布し、国外では朝鮮半島、中国北東部に分布する。草本の葉裏や樹木の細枝、時には人家の軒先下、壁にも営巣する。平地、低山地に生息するが、栃木県、埼玉県、群馬県、茨城県、東京都、神奈川県などの各県など全国的に減少。類似の同属種が数種ある中で、この種のみが減少した理由は不明 ³⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において、1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R5 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、草地、緑の多い住宅地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、草地、緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、草地、緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「新訂 原色昆虫大圖鑑Ⅲ巻」（株式会社北隆館 平成20年1月25日）

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

3) 「環境省レッドデータブック2014 5昆虫類」（環境省、平成27年2月）

表 11-10-33(26) 重要な昆虫類の予測結果(スギハラクモバチ)

項目	内容	
生態	体長 20.0～30.0mm 大型のベッコウバチ。山寄りの社寺周辺などに比較的広く分布する。アシダカグモなど徘徊性クモを狩り、朽ちた切株や樹洞内の腐朽材に営巣する ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において、1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点1個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「京都府レッドデータブック2015」（京都府環境部自然環境保全課、平成27年7月）

表 11-10-33 (27) 重要な昆虫類の予測結果(アオスジクモバチ)

項目	内容	
生態	体長 13mm 内外 ¹⁾ 。河川敷の草むらなどに多く見られ、愛知県内での生息数が多い ²⁾ 。主に海岸に生息し、イソコモリグモ等の徘徊性クモ類を狩る ³⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	河川沿いの草地において、1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点1個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、草地及び開放水域（河川）の河川敷であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である草地及び開放水域（河川）の河川敷のうち、開放水域（河川）の河川敷は直接改変されない。草地は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である草地及び開放水域（河川）の河川敷のうち、開放水域（河川）の河川敷は直接改変されない。草地は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「新訂 原色昆虫大圖鑑第Ⅲ巻」(株式会社北隆館 平成20年1月25日)

2) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

3) 「環境省レッドデータブック2014 5昆虫類」(環境省、平成27年2月)

(g) 底生動物

予測地域に生息すると考えられる重要な底生動物の予測結果は、表 11-10-34(1)～(11)に示すとおりです。

※ 底生動物の現地調査で確認された昆虫類を除きます。

表 11-10-34(1) 重要な底生動物の予測結果(マルタニシ)

項目	内容	
生態	殻径 45 mm 程度。池沼や水田など流れが緩やかな水底が泥質の淡水域に生息する ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	水田において 47 地点で 9280 個体、河川において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R3 早春季、R4 早春季、R4 春季、R4 夏季
	確認位置	直接改変区域：1 地点 3000 個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：47 地点 6281 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田及び開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-34(2) 重要な底生動物の予測結果(オオタニシ)

項目	内容	
生態	殻高 65 mm、殻径 50 mm。卵胎生で、幼貝は周縁が極端に角張り、そろばん玉型をする。池や小川に住む淡水貝。池沼や小川、用水路などに生息する。マルタニシより澄んだ水の場所や深い場所に多く、県内の水田にはほとんど生息しない ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	溜池において、3地点で530個体が確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 夏季、R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：3地点530個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の子な生息環境は、開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である開放水域（河川、溜池）は、直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である開放水域（河川、溜池）は、直接改変されない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-34(3) 重要な底生動物の予測結果(ウミニナ)

項目	内容	
生態	殻長約 35mm の塔型。内湾の泥干潟の表面に生息している ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	河川において 1 地点で 6 個体が確認された。
	確認時期	R7 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 地点 6 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域(河川)であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域(河川)は、直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域(河川)は、直接改変されない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-10-34(4) 重要な底生動物の予測結果(タケノコカワニナ)

項目	内容	
生態	殻高 60 mm、殻径 20 mm 程度と細高い。河口付近の汽水域に生息する中型の貝。カワニナに似るが、より大型で殻頂に向けて直線的に細くなることで区別できる。また、卵胎生であるカワニナと異なり、本種は卵生で科が異なる。浜名湖周辺で確認されている。河口域の水底の泥上に生息する。一般には小河川の河口に生息する。本種は汽水域の上流寄りに生息するが、純淡水域には生息しない ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	河川において 10 地点で 184 個体が確認された。
	確認時期	R6 秋季、R7 早春季、R7 春季、R7 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：10 地点 184 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川）は、直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川）は、直接改変されない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-34 (5) 重要な底生動物の予測結果(ヒラマキミズマイマイ)

項目	内容	
生態	池沼などに生息する小型の円盤状の淡水貝。殻径 7mm, 殻高 1.5 mm 前後。県内では各地の低地に分布するが、時に山間の湧水地などにも生息する。池沼や小河川の泥底や水草上などに生息する。湧水のあるところで個体数が多い。かつては水田や用水路などにもふつうに生息していたと考えられる ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	水田において、1地点で5個体が確認された。
	確認時期	R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点5個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田及び開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-34 (6) 重要な底生動物の予測結果(トウキョウヒラマキガイ)

項目	内容	
生態	殻高1mm、殻径7mm程度の円盤状の淡水貝。県内では山中の池や溪流で見つかっている。生態的には右巻きのように見えるが、構造的には左巻き。細かい毛状の突起を伴う厚い殻皮を持ち、周縁角がある。時に、周縁角は外側に薄い膜状に広がる。ヒラマキミズマイマイとよく似ており、同種と見なされることもある。溪流では流れのほとんどない部分に生息する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	河川において2地点で30個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2地点30個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）は、直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域（河川、溜池）は、直接改変されない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-34 (7) 重要な底生動物の予測結果(ヒラマキガイモドキ)

項目	内容	
生態	殻径 5mm、殻高 1.5mm 前後。池沼などに生息する小型の円繫状の淡水貝。殻は褐色半透明で光沢がある。生態的には右巻きのように見えるが、構造的には左巻き。県内で広い範囲で見ついているが、いずれの産地でも個体数は少ない。静岡県では近似のヒラマキミズマイマイに比べ、産地も個体数も少ない ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	水田において2地点で12個体、河川において1地点で9個体が確認された。
	確認時期	R3 夏季、R4 夏季、R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：3地点 21個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田及び開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-34 (8) 重要な底生動物の予測結果(ミナミタガイ¹⁾)

項目	内容	
生態	殻長 10 cm 程度。河川の下流域や平野部の用水路などの流れが緩やかで底質が砂泥底で比較的水質の良い場所を生息場所とするほか、平野部のため池などに生息している。グロキディウム幼生の時期にヨシノボリのような底生淡水魚類に寄生しなければ成長できない ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	水田において3地点で10個体が確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 夏季、R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：3地点10個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田及び開放水域（河川、溜池）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（河川、溜池）のうち、開放水域（河川、溜池）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 最新知見から当該地域に分布するタガイ属は「ミナミタガイ(新称)」と考えられており、本報告はそれに倣った。「レッドデータブックあいち2020-動物編-」(2020年、愛知県)では、旧分類のタガイ及びヌマガイをまとめた「ドブガイ」が準絶滅危惧(NT)と判定されているため、旧分類のタガイに含まれる本種も同カテゴリーとして扱った。

表 11-10-34 (9) 重要な底生動物の予測結果(ウネナシトヤマガイ)

項目	内容	
生態	殻高 30mm、殻径 15mm。海産二枚貝類。湾岸部から記録があり、潮間帯中部の磯等に付く ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	河川において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域(河川)であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域(河川)は、直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域(河川)は、直接改変されない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「東京都レッドデータブック2023—東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版—」(東京都環境局自然環境部、令和5年3月)

表 11-10-34 (10) 重要な底生動物の予測結果(ソトオリガイ)

項目	内容	
生態	殻長約 45mm で、殻は長楕円形で膨らみは強い。内湾の河口域や奥部の泥干潟に生息する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	河川において 1 地点で 2 個体が確認された。
	確認時期	R7 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1 地点 2 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、開放水域(河川)であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域(河川)は、直接改変されない。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である開放水域(河川)は、直接改変されない。 ・以上より、本種の生息環境への影響はないと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-10-34(11) 重要な底生動物の予測結果(ベンケイガニ)

項目	内容	
生態	甲長 32mm 程度まで。河川の中・下流域や海岸近くの草地、土手、湿地帯、田の畦などに巣穴を掘って生息する。夏には産卵のために河川や海岸に移動する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	水田水路において1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R4 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点1個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田及び開放水域（河川）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（河川）のうち、開放水域（河川）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び開放水域（河川）のうち、開放水域（河川）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「日本の淡水性エビ・カニ 日本産淡水性・汽水性甲殻類102種(ネイチャーウォッチングガイドブック)」(株式会社誠文堂新光社、2014年5月)

(h) クモ類

予測地域に生息すると考えられる重要なクモ類の予測結果は、表 11-10-35(1)～(6)に示すとおりです。

表 11-10-35(1) 重要なクモ類の予測結果(ワスレナグモ)

項目	内容	
生態	体長メス 13～18 mm、オス 5～8 mm である。畑地、草地、芝生、庭園の植え込みの縁などに生息する。芝生や草むらなどよく日光の当たる場所の地中に管状の縦穴住居を造り生息している。住居の深さは 15～20cm 程度であり、入口は露出するか糸で閉じ、内側はきわめて細くて丈夫な糸で裏打ちされている ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）の炭焼き窯跡において 1 地点で幼体 1 個体が確認された。
	確認時期	R4 秋季
	確認位置	直接変更区域：－ 事業実施区域周辺（直接変更区域外）：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、草地、畑地、緑の多い住宅地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である草地、畑地、緑の多い住宅地等は直接変更により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である草地、畑地、緑の多い住宅地等は直接変更により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019－静岡県レッドデータブック〈動物編〉」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-35 (2) 重要なクモ類の予測結果(カネコトタゲモ)

項目	内容	
生態	体長メス 12～15mm、オス 10～13mm である。山地の崖、樹林地の傾斜地や林床、草むら、人家や社寺の庭などに生息する。地中に管状の横穴住居を造り、穴の深さは 10～20 cm である。また、入口となる管の先端部の縁に両開きの扉を形成する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 40 地点で 87 個体、人工林において 13 地点で 15 個体、果樹園において 1 地点で 2 個体が確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 夏季、R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：1 地点 1 個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：53 地点 103 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、草地、果樹園、緑の多い住宅地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、草地、果樹園、緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、草地、果樹園、緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-35 (3) 重要なクモ類の予測結果(キノボリトタテグモ)

項目	内容	
生態	体長メス 10～12mm、オス 8～10mm である。神社や寺院、旧家の庭、古い公園、林道沿いなどにある太い樹木の表面、日の当たらない石垣、岩壁の表面のくぼみなどに生息する。岩の壁面や古木の樹皮のくぼみなどを利用し、長さ 2～3cm の住居を造る ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 61 地点で 81 個体、人工林において 27 地点で 28 個体、果樹園において 6 地点で 7 個体が確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 夏季、R4 秋季、R6 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：94 地点 116 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、緑の多い住宅地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-35(4) 重要なクモ類の予測結果(ニシキオニグモ)

項目	内容	
生態	体長メス 12～18mm、オス 9～10mm である。神社、寺院に多く見られ、建物の周囲、灯籠、鳥居、及び周辺の樹間に生息する。本種は、網にかかった昆虫などの獲物をラッピングして捕食するため網にかかりやすい飛翔性昆虫の生態とも関係が深く、造網には風の流れなども関係しているようである ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地(人工林以外)において、2地点で2個体が確認された。
	確認時期	R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：2地点2個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地(人工林以外)、緑の多い住宅地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)及び緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画とすることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地(人工林以外)及び緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、事業実施区域周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月)

表 11-10-35(5) 重要なクモ類の予測結果(オニグモ)

項目	内容	
生態	体長メス 20～30mm、オス 15～20mm である。人家、神社、寺院などの建物の周囲に生息する。夜間に大型の垂直円網を張り網の中心にいるが、昼間は物陰に潜むという特徴的な生態をもつ。本種は網にかかった昆虫などの獲物をラッピングして捕食するため、網にかかりやすい飛翔性昆虫の生態とも関係が深く、造網には風の流れや光なども関係しているようである ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R4 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）及び緑の多い住宅地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画とすることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、事業実施区域周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-35(6) 重要なクモ類の予測結果(ゲホウグモ)

項目	内容	
生態	体長雌 12~18mm、雄 2~3mm。低山、雑木林、公園など広く分布する。日中は脚を縮めて、枝や樹幹などの先端に止まって擬態する。夜間は樹間に目の細かな円網を張る ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	果樹園において、1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R4 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点1個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林及び緑の多い住宅地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林及び緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画とすることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林及び緑の多い住宅地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、事業実施区域周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

(i) 陸産貝類

予測地域に生息すると考えられる重要な陸産貝類の予測結果は、表 11-10-36(1)～(16)に示すとおりです。

表 11-10-36(1) 重要な陸産貝類の予測結果(ゴマオカタニシ)

項目	内容	
生態	成貝は、殻長 1.8 mm、殻径 1.4 mm 程度のタニシ形の微小種。低山地の自然林やそれに隣接したスギ植林地の林床である落葉堆積下のリター層や礫間に付着する個体が確認された ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 3 地点で 520 個体、人工林において 2 地点で 550 個体が確認された。
	確認時期	R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：5 地点 1070 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）及び人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-36 (2) 重要な陸産貝類の予測結果(ナガオカモノアラガイ)

項目	内容	
生態	湿地の草の上に住む陸貝。殻高 12mm、殻径 6 mm。殻はきわめて薄く半透明で黄褐色を呈す。体層は著しく膨大する。淡水産のモノアラガイ類と形態が似ているが、系統的に全く異なる ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	水田において 6 地点で 217 個体、草地において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 初夏季、R4 秋季、R6 春季、R6 初夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：7 地点 218 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、水田及び草地（陸水域）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び草地（陸水域）のうち、草地（陸水域）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・工事中は、工事濁水や土砂等の開放水域等への直接流入を極力抑える計画とするため、濁水等による水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じない。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田及び草地（陸水域）のうち、草地（陸水域）は直接改変されない。水田は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-36 (3) 重要な陸産貝類の予測結果(ナニワクチミゾガイ)

項目	内容	
生態	殻高 1.5 mm、殻径 2.5 mm。生息地は寺院の裏の丘陵地のいわゆる社寺林で、スタジイを中心とした常緑広葉樹の比較的大径木で構成された林である ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	緑の多い住宅地・公園・墓地等において1地点で10個体が確認された。
	確認時期	R4 春季
	確認位置	直接変更区域：— 事業実施区域周辺（直接変更区域外）：1地点10個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、緑の多い住宅地・公園・墓地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である緑の多い住宅地・公園・墓地等は直接変更により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である緑の多い住宅地・公園・墓地等は直接変更により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2019—静岡県レッドデータブック〈動物編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月）

表 11-10-36(4) 重要な陸産貝類の予測結果(キセルガイモドキ)

項目	内容	
生態	殻長 25 mm、殻径 32 mm 程度。本種は山地の自然林内の落ち葉や朽ち木の下、石灰岩地の石の下などに生息する。日本固有種。本州、四国、九州に広く分布する。地域により貝殻形態や生態等に差異が認められる ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において2地点で6個体が確認された。
	確認時期	R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2地点6個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の子な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の子な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-36(5) 重要な陸産貝類の予測結果(オオギセル)

項目	内容	
生態	殻長 40mm を超える。主として山地の森林に生息し、落葉広葉樹林にもスギの植林地にも見られる。樹上には登らず地上棲で、石礫が積もった環境に見られることが多く、石垣など人工的な石組み環境にも住み着いていることがある ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 15 地点で 41 個体、人工林において 13 地点で 32 個体、果樹園において 7 地点で 15 個体、緑の多い住宅地・公園・墓地等において 4 地点で 9 個体が確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 夏季、R4 秋季、R6 春季、R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：39 地点 97 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、緑の多い住宅地・公園・墓地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、緑の多い住宅地・公園・墓地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園、緑の多い住宅地・公園・墓地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「京都府レッドデータブック2015」（京都府環境部自然環境保全課、平成27年7月）

表 11-10-36 (6) 重要な陸産貝類の予測結果(ミカワギセル)

項目	内容	
生態	殻高 15～23 mm。山地から平野部まで点々と分布するが、寺社林や谷沿いの自然林内の落葉、朽木や礫の下に生息している場合が多い ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 2 地点で 2 個体、果樹園において 1 地点で 1 個体、緑の多い住宅地・公園・墓地等において 1 地点で 2 個体が確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：4 地点 5 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、果樹園及び緑の多い住宅地・公園・墓地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、果樹園及び緑の多い住宅地・公園・墓地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、果樹園及び緑の多い住宅地・公園・墓地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-36 (7) 重要な陸産貝類の予測結果(ホソヤカギセル)

項目	内容	
生態	殻長 18～28 mm 程度。山地から平野部まで点々と分布する。良く保全された寺社林や自然林内の落葉、朽木の下に生息している場合が多い ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 15 地点で 33 個体、人工林において 7 地点で 11 個体、果樹園において 8 地点で 16 個体、緑の多い住宅地・公園・墓地等において 4 地点で 9 個体が確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 夏季、R4 秋季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：34 地点 69 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）、果樹園及び緑の多い住宅地・公園・墓地等であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、果樹園及び緑の多い住宅地・公園・墓地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）、果樹園及び緑の多い住宅地・公園・墓地等は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-36 (8) 重要な陸産貝類の予測結果(ハチノコギセル)

項目	内容	
生態	殻は中形で殻高 20mm 内外、殻径 5mm。石灰岩地の礫間に生息するが、必ずしも石灰岩地のみではない。岩礫地の落葉下を好むが、余り群れを作らない。愛知県豊橋市石巻山等の特産種とされていたが、広く静岡県西部に分布することが明らかになった ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 5 地点で 9 個体、人工林において 2 地点で 2 個体、果樹園において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R6 春季、R6 夏季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：8 地点 12 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）及び人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-36(9) 重要な陸産貝類の予測結果(ミジンナタネ)

項目	内容	
生態	殻は薄く微小で殻径は3mm程度。螺塔は低く螺層はよく膨れ、縫合は深い。本州東北部を中心に分布。堆積した落葉中からみられる ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）内の落ち葉において1地点で成貝の死骸1個体が確認された。
	確認時期	R6 春季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点1個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「いしかわレッドデータブック2020-貝類-」（石川県生活環境部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-36(10) 重要な陸産貝類の予測結果(ウラウズタカキビ)

項目	内容	
生態	殻長 2.5mm、殻径 2.1mm 程度。低山地などの山深くない里山的環境で確認される。小河川や沢に面したスギ植林などの明るい林の、アオキ類などの常緑低木やアジサイ類の葉裏などに付着している個体を確認されることが多い。本種の発見機会の多い 5～7 月にかけては繁殖期で、殻の大きさが最大になる 7 月頃には産卵を終え死滅する 1 年生の種と推測されている ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 7 地点で 11 個体、人工林において 3 地点で 3 個体を確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 夏季、R4 秋季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：1 地点、2 個体 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：9 地点 12 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）及び人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-36(11) 重要な陸産貝類の予測結果(ヒゼンキビ)

項目	内容	
生態	殻長 1.8mm、殻径 2.0 mm 程度。平地から山地までの良好な環境が維持された森林に限られる。本種は林床の落葉層下に生息し、分解の進んだ落葉などを食べて生活していると考えられる ¹⁾ 。	
現地調査における 確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 1 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による 影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-36(12) 重要な陸産貝類の予測結果(ウメムラシタラガイ)

項目	内容	
生態	殻長 1.2 mm、殻径 1.8 mm 程度。主に低山地や山麓の環境に生息する種である。島嶼の森林で確認される場合もある。林床の落葉下に生息する。微小である上に稀な種でもあり、生態に関しては何も知見がない ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	人工林において1地点で1個体が確認された。
	確認時期	R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点1個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）及び人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線上を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-36(13) 重要な陸産貝類の予測結果(ヒメカサキビ)

項目	内容	
生態	殻径 2.8mm 程度の微小種である。海岸林や低山地、山麓などの環境に生息する種である。スギ植林、広葉樹林などの林床の落葉堆積下に生息する。常緑樹林の若干乾き気味の林床の落葉堆積下にも見られる。日本国内に広く分布し、主に本州、四国、九州に分布記録がある他、奄美大島（早瀬, 未発表）や沖縄（久保, 2014; 早瀬, 2017）にも分布記録が見られる ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 9 地点で 12 個体、人工林において 1 地点で 1 個体、果樹園において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 夏季、R4 秋季、R6 春季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：11 地点 14 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）及び人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-36(14) 重要な陸産貝類の予測結果(ピロウドマイマイ)

項目	内容	
生態	殻長 10 mm、殻径 20 mm 程度。丘陵部から山地にかけての湿度が保たれた自然林もしくは社寺林内の、主に朽ち木や瓦などが積み重なった下面に潜んでいる。春から秋の降雨後には、陸産貝類の多くは林床上を匍匐するが、本種は日中に地表には殆ど現れない。主に分解の進んだ落葉を摂食すると考えられるが、秋にはキノコ類を食べる個体が確認される例も多い ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 2 地点で 3 個体、人工林において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：3 地点 4 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-36(15) 重要な陸産貝類の予測結果(サンエンマイマイ)

項目	内容	
生態	殻長 11.3～14.3mm、殻径 14.7～17.1mm 程度。愛知県における確認地は、山地斜面の、広葉樹林に接したスギ植林地である。林内のアオキ類など常緑低木の葉裏に付着する個体が確認された。食性については植物食で、主に分解の進んだ落葉などの土壌中の有機物を食べて生活していると推測される ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 5 地点で 6 個体、人工林において 6 地点で 7 個体、果樹園において 1 地点で 1 個体が確認された。
	確認時期	R4 春季、R4 夏季、R4 秋季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：12 地点 14 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）及び人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-10-36(16) 重要な陸産貝類の予測結果(カドコオオベソマイマイ)

項目	内容	
生態	殻長 7.4mm、殻径 14.1mm 程度の小型の種である。良好な広葉樹林やその付近に位置するスギ植林の林床部の落葉下に生息する。地上性種であり、一生を通して、落葉下のリター層や地表面で活動する ¹⁾ 。	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林地（人工林以外）において 5 地点で 5 個体が確認された。
	確認時期	R4 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：5 地点 5 個体
生息環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（人工林以外）及び人工林であると考えられる。	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、工事施工ヤード及び工事用道路等は、計画路線を極力利用する計画としていることから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林地（人工林以外）及び人工林は直接改変により、一部が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く残される。 ・以上より、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。 	

1) 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

(3) 環境保全措置の検討

1) 環境保全措置の検討の状況

動物の重要な種の予測結果において、建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施及び道路（地表式、嵩上式、地下式）の存在に係る動物に関する環境影響がない又は極めて小さいと予測される以外の種について、表 11-10-37 に示すとおり、環境保全措置を検討しました。

表 11-10-37 環境保全措置の検討の状況

環境保全措置	保全対象種	実施の適否	適否の理由
変更の最小化	ハチクマ フクロウ アオバズク	適	営巣地周辺の改変を最小化することにより、生息及び繁殖環境への影響を緩和することができます。
工事工程の配慮及び段階的な土地の改変 (コンディショニング)	ハチクマ フクロウ アオバズク	適	施工規模を徐々に大きくする工事工程の調整や段階的な土地の改変により、ハチクマ、フクロウ、アオバズクを工事に馴化させることで、繁殖時における忌避行動を緩和することができます。
人工代替巣の設置	ハチクマ フクロウ アオバズク	適	影響を受ける営巣環境の代償措置として、営巣環境を代替可能な適地にハチクマの人工代替巣やフクロウ、アオバズクの巣箱を設置し、営巣地を誘導することで、営巣環境を代償できます。
個体の移殖	トウカイナガ レホトケドジ ョウ	適	流量が低下する沢に生息するトウカイナガレホトケドジョウを、地下水の変化の影響がない同様の沢に移殖することで、生息環境を代償できます。

2) 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置検討結果の検証

環境保全措置の実施主体は事業者です。

環境保全措置としては、「改変の最小化」、「工事工程の配慮及び段階的な土地の改変（コンディショニング）」、「人工代替巣の設置」、「個体の移殖」を実施します。

環境保全措置の実施内容等の検討結果を表 11-10-38(1)～(4)に示します。

環境保全措置の検討にあたっては、実行可能な措置を講じるものとしており、事業者により実行可能な範囲内で環境影響をできる限り回避又は低減され则认为します。

表 11-10-38(1) 環境保全措置の検討結果

環境保全措置	改変の最小化
環境影響	近傍の営巣地が利用される場合は、工事により生息及び繁殖環境の変化が予測されます。
保全対象	ハチクマ、フクロウ、アオバズク
方法・内容	営巣地周辺の詳細設計においては、改変の最小化に努めます。
環境保全措置の効果	ハチクマ、フクロウ、アオバズクの生息及び繁殖環境の変化を緩和できます。
効果の不確実性	ハチクマ、フクロウ、アオバズクの繁殖・定着に不確実性があります。
他の環境への影響	なし

表 11-10-38(2) 環境保全措置の検討結果

環境保全措置	工事工程の配慮及び段階的な土地の改変（コンディショニング）
環境影響	近傍の営巣地が利用される場合は、繁殖への影響があると予測されます。
保全対象	ハチクマ、フクロウ、アオバズク
方法・内容	営巣地周辺で工事を行う場合には、繁殖期以前から段階的に工事着手することにより、建設機械や作業員の動きに馴化できるよう配慮します。また、改変される環境に適応できるよう、土地の改変を徐々に行います。
環境保全措置の効果	ハチクマ、フクロウ、アオバズクの繁殖時における忌避行動を緩和できます。
効果の不確実性	ハチクマ、フクロウ、アオバズクの繁殖・定着に不確実性があります。
他の環境への影響	なし

表 11-10-38(3) 環境保全措置の検討結果

環境保全措置	人工代替巣の設置
環境影響	近傍の営巣地が利用される場合は、営巣環境及び繁殖への影響があると予測されます。
保全対象	ハチクマ、フクロウ、アオバズク
方法・内容	営巣環境を代替可能な適地にハチクマの人工代替巣並びにフクロウ、アオバズク巣箱を設置し、生息環境及び繁殖への影響を回避・低減できるように営巣地を誘導します。
環境保全措置の効果	ハチクマ、フクロウ、アオバズクの営巣環境を代償できません。
効果の不確実性	ハチクマ、フクロウ、アオバズクの繁殖・定着に不確実性があります。
他の環境への影響	なし

表 11-10-38(4) 環境保全措置の検討結果

環境保全措置	個体の移殖
環境影響	地下水の変化により、本種の主な生息環境である沢の流量が低下する場合は、生息環境への影響があると予測されます。
保全対象	トウカイナガレホトケドジョウ
方法・内容	沢の流量の低下等の変状の兆候が確認された場合、流量が低下する沢に生息する個体を地下水の変化の影響がない同様の沢に移すことにより種を保全します。
環境保全措置の効果	トウカイナガレホトケドジョウを地下水の変化の影響がない同様の沢に移殖することにより、生息環境を代償できません。
効果の不確実性	地下水に係る地質構造及び影響範囲に不確実性があります。 また、トウカイナガレホトケドジョウの移殖後の繁殖・定着に不確実性があります。
他の環境への影響	移殖先の生態系を攪乱する可能性があります。

(4) 評価

1) 評価の手法

① 回避又は低減に係る評価

建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施及び道路（地表式、嵩上式、地下式）の存在に係る動物に関する影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより行いました。

2) 評価の結果

① 回避又は低減に係る評価

対象道路は、道路の計画段階において、多くの動物が生息環境として利用している弓張山地の樹林地では大部分でトンネル構造を採用し、地域を特徴づける動物の生息環境をできる限り回避した計画としています。さらに、工事施工ヤードは計画路線を、工事用道路は既存道路を極力利用して、工事の実施による土地の改変を最小限に抑えた計画としており、動物への影響に配慮し、環境負荷の回避・低減を図っています。

また、事業実施段階において以下の事項に配慮することとしています。

- ・ 一定規模以上の建設機械は排出ガス対策型機械、低騒音型、低振動型の機械を採用します。
- ・ 工事用車両の運行に係る動物への影響を低減するために、動物のロードキルに留意し、丁寧な運行を励行します。
- ・ 建設発生土の仮置きやトンネル排水等、工事の実施に伴って発生する濁水の影響を低減するために、沈砂地等の濁水処理施設で処理した後に公共用水域に放流することにより、水質への影響の低減に努めます。
- ・ 河川内での工事を行う場合には、瀬替え施工を基本としますが、必要に応じて仮締め切り工法を採用し、いずれの場合も工区内にてコンクリートを十分乾燥させ、河川下流側の pH に異常が生じないことを確認するなど、水質、動物、植物、生態系への影響の低減に努めます。
- ・ 保全対象動植物の生息・生育地近傍で工事を行う場合には、必要に応じて立入防止柵の設置や作業員への周知を行うなどの配慮をします。
- ・ 道路照明は、指向性照明の採用などを検討し、住居等や動物への影響の低減に努めます。
- ・ 詳細設計においては、改変の最小化に努めます。

さらに、影響があると予測されたハチクマ、フクロウ、アオバズク、トウカイナガレホトケドジョウについては、環境保全措置を実施することで、環境負荷を回避・低減するとともに、効果の不確実性のある環境保全措置に対しては事後調査を実施します。

これらのことから、建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施及び道路（地表式、嵩上式、地下式）の存在に係る動物

に関する影響は、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているものと評価します。